

学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

(1) 新設組織の概要	p. 2
①新設組織の概要（名称，入学定員（編入学定員），収容定員，所在地）	
②新設組織の特色	
(2) 人材需要の社会的な動向等	p. 3
①新設組織で養成する人材の全国的，地域的，社会的動向の分析	
②中長期的な15歳人口等入学対象人口の全国的，地域的動向の分析	
③新設組織の主な学生募集地域	
④既設組織の定員充足の状況	
(3) 学生の確保の見通し	p. 5
①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	
ア 既設組織における取組とその目標	
イ 新設組織における取組とその目標	
ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく，新設組織での入学者の見込み数	
②競合校の状況分析（立地条件，養成人材，教育内容と方法の類似性と定員充足状況）	
③先行事例分析	
④学生確保に関するアンケート調査	
⑤人材需要に関するアンケート調査等	
(4) 新設組織の定員設定の理由	p. 12

(1) 新設組織の概要

①新設組織の概要（名称，入学定員（編入学定員）， 収容定員， 所在地）

以下の表に新設組織の概要を示す。

奈良工業高等専門学校 新設組織

新設組織	入学定員	収容定員	所在地
奈良工業高等専門学校			奈良県大和郡山市
情報科学科	40	200	矢田町22番地
システムデザイン工学科	120	600	
物質創成化学科	40	200	

②新設組織の特色

各専門分野の高い技術力を備えながらも最先端の情報技術（AI技術）を専門分野に応用できる技術者やAIをビジネスに応用できる人材（AI活用技術者），及び，AI技術そのものを開発する技術者（AI開発技術者）を養成するために，全学科で教育内容やカリキュラムを大幅に見直す。また，情報科学科では，情報学の高度人材育成のために，専門性を更に高めた2コースにする。更に，近年分野横断的に様々な技術開発が進んでいる機械・電気・電子制御分野の教育を融合的・柔軟的に進めるために1学科3コースに組織再編成し，AI技術やデータサイエンスの発展が著しい化学分野では，物質化学工学科を「物質創成化学科」に再編する。上記の表に示すように，現在の5学科を3学科（システムデザイン工学科3コース，情報科学科2コース，物質創成化学科）とし（【資料1】の表1），『専門分野にもAI（情報技術）にも強い奈良高専』に再編する。

養成する人材像などは以下の通りである。また，大学改革推進・学位授与機構から授与される工学の学位の区分も【資料1】の表2や表3に示した。

【養成する人材像】

各学科・各コースで養成する人材像を以下に示す。

A. 情報科学科

情報科学分野での知識及び技術を身につけた上で，各コースの専門分野に関する知識，技術，問題解決能力を身につけた情報系技術者・研究者となりうる人材及び，今後あらゆる分野で使われるようになるAIの技術を発展させうる人材を養成する。

○コンピュータサイエンスコース

AIを支える高度情報基盤の開発に貢献しうる，コンピュータ技術，ネットワーク技術，サイバーセキュリティ技術に秀でた人材を育成する。

○データサイエンスコース

AI技術の開発と発展に貢献しうる，AI・データサイエンス，ビジネスエンジニアリングに秀でた人材を育成する。

B. システムデザイン工学科

数学・物理・ものづくりの基礎を身につけた上で，各コースの専門分野の基礎技術を軸として，デジタル・AI・情報技術を活用することで社会のニーズに柔軟に対応できる課題発見・解決能力を身につけた技術者・研究者となりうる人材を養成する。

○機械情報コース

材料・加工，熱・流体，機械力学・計測制御に関する専門能力ならびに実験・実習技術を身につけ，さらにデジタル・AI・情報技術を活用することで幅広い産業分野で専門技術を応用・展開できる人材を養成する。

○電気電子情報コース

電気電子回路，電気電子材料，電力・制御工学，通信工学に関する専門能力ならびに実験技術を身につけ，さらにデジタル・AI・情報技術を活用することで幅広い産業分野で

専門技術を応用・展開できる人材を養成する。

○ロボティクス情報コース

ロボット工学の基礎となる機械工学，電気電子工学，計測・制御工学，システム工学に関する専門能力ならびに実験技術を身につけ，さらにデジタル・AI・情報技術を活用することで幅広い産業分野で専門技術を応用・展開できる人材を養成する。

C. 物質創成化学科

化学及びバイオ分野における確固たる専門能力を有し，さらに AI などのデジタル技術を組み合わせることによる新たな材料開発，創薬，エネルギー・環境問題解決など日々変化する社会ニーズに対応するための問題発見・解決能力を身につけた技術者・研究者となりうる人材を養成する。

(2) 人材需要の社会的な動向等

①新設組織で養成する人材の全国的，地域的，社会的動向の分析

まず，新設組織で養成しようとする高度情報人材の全国的，社会的動向の分析について述べる。IT 人材需給に関する調査（経済産業省委託事業みずほ情報総研株式会社）によると，情報産業の構造転換が起こると，これまでの情報産業を支えてきた従来型 IT 人材から AI，IoT，ビッグデータ等の先端 IT 人材へのシフトが起こり，2030 年では最大で先端 IT 人材不足が 73.7 万人に，従来型 IT 人材についても 5.0 万人の人材不足が予想されている。また，AI 研究者，AI 開発者に加え，AI の特徴や課題を理解し，AI を活用した製品・サービスを企画し市場に売り出す人材である AI プランナーも必要とされており，これら AI 人材も 12.4 万人程度の不足が見込まれている。

また，内閣府 AI 戦略 2022 では，「AI 時代に対応した人材」の育成が日本の将来のためには，重要かつ急務な課題と位置付けており，その人材は，単に 1) 最先端の AI 研究を行う人材だけではなく，2) AI を産業に応用する人材，3) 中小の事業所で応用を実現する人材，4) AI を利用して新たなビジネスやクリエイションを行う人材であると述べられている。さらに，AI の社会実装の推進においては「日本が強みを有する分野と AI の融合」が重要であると述べられており，ものづくりや材料化学などと AI の融合が必要となっている。このような背景の中，数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度が開始され，AI 戦略 2022 では，応用基礎レベルについて高専・大学学生の 50%が履修することを目指すとしている。

中小企業庁（2018 年 3 月中小企業の特定期間のものづくり基盤技術の高度化に関する指針）においては，我が国の製造業の 99%以上を占める中小企業・小規模事業者が取り組むべき方向性としては，1) IoT，AI 等の技術を活用することによって，基盤技術の高度化を図っていくこと，2) 中小企業・小規模事業者がデータを取得するためのセンサや，AI のアルゴリズム，データ解析用の計算処理チップの開発など，IoT，AI 等に関連する技術そのものを高度化させていくことが求められ，また，第 4 次産業革命では，特にスピード感が求められることから，様々な関係機関と連携しながら中小企業・小規模事業者による積極的かつ挑戦的な取組が期待される，としている。中小企業においても，分野横断型の連携や，ものづくり産業に特化した AI，DX の推進は，待ったなしの状況にあると言える。

次に，新設組織で養成する高度情報人材の地域的動向について分析する。奈良県が令和 3 年度に実施したデジタル化実態調査では，奈良県内に本社を有する製造業全てと情報通信業の一部の全事業者（2007 社）のうち，470 社（有効回答率 44.1%）が回答した。奈良県における製造業は事業全体の 14.5%で，全国平均よりわずかに高く，中小企業が全体の 98.8%を占めている（奈良県統計課「奈良県工業統計調査」）。県内企業のデジタル化推進及び人材確保の状況については，70.4%の企業が何らかのデジタル化推進に取り組んでいる一方，人材確保の面では，31.5%の企業でデジタル化推進人材が不足しており，「足りている」とした企業は 22.8%にとどまった。デジタル化システム等の導入状況では，社内効率化などのために IoT や AI のシステムを導入している（導入予定を含む）企業は，8.4%

にとどまった。「検討したが、未導入」は12.0%あり、その理由の上位は、コストがかかる(52.3%)、システムが自社に適合しない(36.4%)、使いこなす人材がいない(33.0%)で、導入コストだけでなく、導入・運用のための情報系人材が求められている。[【資料2】の図1](#)に同調査でのデジタル化推進に必要な技術分野を示す。県内企業が必要とする上位6技術分野は、「サーバ構築・VPN・ネットワークセキュリティ」(32.5%)、「AI技術(ディープラーニング)」(32.2%)、「デジタルものづくり」(26.9%)、画像処理技術(19.4%)、「3D CAD設計」(16.6%)、「解析シミュレーション」(13.8%)である。これら上位6分野と改組後の新学科(コース)との対応関係は、1, 2, 4位の3分野が改組後の情報科学科(1, 2, 4位)、うちコンピュータサイエンスコース(1位)、データサイエンスコース(2, 4位)で、残りの3分野(3, 5, 6位)は、改組後のシステムデザイン工学科が各専門分野を高度情報化する対象分野である。

上述の調査のうち、奈良県での製造業等で不足しているデジタル化推進人材と改組後の学科で養成する人材との関係について述べる。[【資料2】の図2](#)に同調査でのデジタル化推進に不足している人材を示す。デジタル化推進人材が「足りていない」と回答した企業のうち、不足している人材の1位は、ネットワーク技術者(社内ネットワーク管理)(58.9%)、2位は「システム開発技術者(社内システム開発)(57.1%)」で、情報科学科への改組により、高度情報化人材の需要増に応えることができる。ついで4位から6位の不足している人材は、IoTシステムを担う人材(38.5%)、セキュリティ人材(34.2%)、データサイエンティスト(24%)であり、情報専門人材だけでなく、システムデザイン工学科への改組により、機械、電気、ロボット各専門分野の技術者を高度情報化した人材育成が求められている。

②中長期的な15歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

本校は、2026年度もしくは2027年度の改組(近日中に年度を確定)を計画しているため、2026年～2036年付近の人口動向について着目する。政府統計の総合窓口(<https://www.e-stat.go.jp/>)で公開されている年齢別人口推計などを使って[【資料3】の表4や表5](#)のように15歳人口を計算した。2026年に比べ、2036年は全国の15歳人口は78%となる。近畿地区の各府県では、大阪は減少率が低く18%で、奈良は最も減少率が高く30%であった。

本校の志願者倍率は、現在1.2倍であるため、15歳人口の本校の受験比率が変わらなければ、人口減少から推計すると2036年度の倍率は $1.2 \times 0.78 = 0.94$ 倍となり定員を割ってしまうことになる。これは、本校に限らずどここの教育機関でも同じような状況であると言える。今回の改組では、AIや情報技術を専門分野の能力と組み合わせ活用できる人材を輩出するという社会的な使命を果たすというだけではなく、中学生に関心の高いAI分野の学習を取り入れることで本校の人気を回復し、志願者の向上を狙うことも考えている。後述する(3)学生の確保の見通し④学生確保に関するアンケート調査で述べるように、現時点で本校や理数系高校への進学を希望しない層の7%(全体の3%)が、改組後の学科に対しては、今より入学したい気持ちが強まったと回答しており、改組によって倍率の向上は期待できる。詳細な定員充足の見通しは、③新設組織の主な学生募集地域で述べる。また、これまで女子学生が敬遠しがちな「ハード」なイメージがある機械・電気・電子制御の分野にAIを取り入れて「ソフト」な面をアピールすることで、これまで以上に女子志願者の増加にも力を入れるなど、新たな学生層の確保に力をいれることで、定員の充足に努める。それに付随する問題を解決するために、寮の増築などを計画しており、より広域からの学生、留学生の獲得を推進する。

③新設組織の主な学生募集地域

[【資料4】の表6](#)に本校の都道府県別入学者割合を、[【資料4】の表8](#)に都道府県別志願者割合を示す。本校は、これまで、奈良県、大阪府、京都府の3つの府県からの志願者が約9割を占めている。他高専の場合、所在都道府県からの志願者が多いが、本校は比較的交通の便の良い地域にあることから、奈良県以外の府県からの志願者が多いという傾向が続

いている。しかし、10年前と比較すれば、入学者に関しては奈良県の割合が4.0%、京都府の割合が2.8%下がり、志願者に関しては奈良県の割合が2.3%、京都府の割合が2.1%低下している。それに対して、近畿地区以外から入学者や兵庫県からの入学生がそれぞれ1.7%増加（志願者は、それぞれ1.0%、0.7%増加）している。

さらに詳細に検討するために、都道府県別15歳の人口（【資料3】の表5）と【資料4】の表7の本校の都道府県別志願者数から、15歳人口の本校の志願率を計算したのが、【資料5】の表9である。この表を見ると奈良県の15歳人口の志願率は10年前に比べて0.13%減少している一方で、他府県からの志願者は、いずれも増加している。最近では、インターネットを使った情報収集が盛んになったことや、全国の高専が一堂に会してPR活動を行う国公立高専合同説明会（KOSEN FES）などのイベントが盛んになり、中学生は、地元の高専だけではなく、全国の高専を視野に入れた志望校選びを開始していることを反映していると考えられる。本校が他府県の受験生を集めてきたのは、これまでも一定の高い評価を得ていることを示しており、今回の改組でより魅力的な学校づくりを行い、さらに奈良県以外の地域の受験生の確保に努める。

以上を踏まえ、今後の志願者の予想値を計算したのが、【資料5】の表10である。予想値の計算には、15歳人口の本校の志願率を使った。奈良県については、今回の改組の周知をしっかりと行い、魅力ある新しい高専であることを伝えることで、2020～2024年度の5年間の志願率を維持するとした。他府県については、引き続き本校の志願率の増加を見込み10年前の志願率からの増加分から計算した年間増加分を加えて志願率を計算し、【資料4】の表6に示した。この予想値と【資料3】の表5の15歳人口の推計値より各都道府県の志願者数を見積もり、【資料5】の表10(a)に記した。これによると、2036年度の志願倍率も1倍を超えており、定員割れは回避できる見込みである。

さらに、中学生アンケートで現在は進学に消極的であったが、改組後の本校の進学に興味があると答えた人数は229名中7名（3%）であったため、15歳人口の志願率が1.03倍増加するとして計算したのが、【資料5】の表10(b)である。この計算によりさらに志願者倍率の向上が期待できるが、今後の人口減に対処するためには、改組によって変わる新しい奈良高専の魅力を積極的にアピールし、15歳人口の志願率をさらに向上させる取組を行う。

④既設組織の定員充足の状況

現在の地域別の志願者数及び入学状況は、【資料4】の表7及び別紙1に示した通りで、募集人員200名を越えており、定員は充足できている。詳細は、別紙2に示した通りである。

（3）学生の確保の見通し

①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

本校では、広報センターが令和5年3月運営会議に「令和5年度以降の広報戦略」を提案し、了承を得、令和5年4月以降の総務委員会/広報センターによって、若干の修正対応が取られつつも、基本的には以下のような方針で活動が実施されている。詳細は、別紙3に記載するため、ここでは戦略と実施内容の概略を述べる。

A. すそ野拡大

1）公開講座、出前授業、科学教室の実施。

特に集客力の高い商業施設における科学教室の実施から波及効果の拡大を狙う。

2023年8月11日 イオンモール大和郡山と「包括連携協力に関する連携覚書」を締結し、同日、科学教室「プログラミングの力で金魚を捕まえろ！ロボットで挑む金魚すくい」を実施した。

2）高専女子フォーラム

高専女子フォーラムは、12年前に本校が企画し開催したもので、現在も高専女子フォ

ーラム in 関西が継続して開催されており、本校も毎年、多数の女子学生が発表をしている。このイベントは、近畿地区の高専の女子学生が、女子中学生・保護者、企業関係者等を対象に、1. 高専の専門教育の紹介、2. 高専の研究紹介、3. 女子学生の学生生活・課外活動紹介を発表し、企業からも、企業における女性技術者の活躍、男女共同参画の取り組みについて発表することで高専女子学生のキャリア教育、高専教員の研修の場とするとともに、女子受験生の拡大を狙っている。

3) 国公立高専合同説明会 (KOSEN FES) (国立高等専門学校機構主催)

国立高等専門学校機構が東京と大阪の会場に全国高専を集約し、高専を小中学生とその保護者にアピールし受験生増につなげることを目的に実施しているもので、東京、大阪ともに多くの小中学生の来場実績がある。特に大阪会場は、本校所在地と同じ近畿地区ということもあり、多くの来場者を得ている。令和5年度のKOSEN FES実施後のアンケートでも、本校についてポジティブな記述が多くみられ、将来の志願者確保に向けた受験生掘り起こしにつながっている。

B. 本校への理解

1) 体験入学

教職員と本校に在籍する学生により、身近で良好なコミュニケーションをとりつつ、参加者に体験授業、クラブ見学等を受けてもらい、本校の雰囲気を知り、入学後の学校生活のイメージを育むイベントを実施している。

2) 学校見学・入試説明会

体験入学で学科への理解を深めた中学生に対する進路選択の照準を合わせる機会として位置付け、入試説明会の実施と合わせて、各学科のコンテンツ、施設の見学を行う。教職員と補助学生との良好なコミュニケーションや、学科見学、クラブ見学等を通じて、本校の雰囲気を感じてもらい、入学後の学校生活をイメージできるようなイベントとして実施している。

3) 中学校教諭・学習塾・中学生・保護者向け入試説明会 (学内外：主催分、参加分)

特に、大阪府八尾市・大阪市、京都府京田辺市、滋賀県大津市を重点地域と位置づけて、会場を借上げ中学生とその保護者向けに入試説明会を実施している。また、中学校教諭、学習塾講師を対象とする入試説明会を学内及び学外で年1回実施している。さらに、個別学校見学も受け付けており、2023年度の実績は6件であった。また、学習塾や中学校・PTA等が主催する入試説明会にも参加している。

4) ホームページの充実・各種コンテストの掲載、SNS (Social networking service)

アンケート結果から、中学生とその保護者は、本校のイベント等の情報をホームページから得ている割合が極めて高いことが分かっている。そのため、中学生・保護者目線で必要な情報へのアクセスしやすさが極めて重要である。そのことを踏まえて、令和6年3月にホームページのトップページと、中学生・保護者向けのページのリニューアルを行った。本年度中に全面的なリニューアルを行う予定である。本校のホームページでは、アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテストや全国高等専門学校プログラミングコンテスト等の全国高専レベルで実施されるコンテストの情報(概要、成績等)を掲載して、積極的にアピールを図っており、全国高専体育大会等やクラブ活動の情報も掲載している。

また、SNSとしては、X(旧 Twitter)を活用し、様々な情報を発信している。また各学科等も、広報センターの許可を受けた上で、独自にSNSを展開している。

イ 新設組織における取組とその目標

今回の改組は、平成2年の機械工学科1学級の電子制御工学科への改組、平成9年の化学工学科の物質化学工学科への改組以来の本校の設置60年にしての大きな再編となるため、これまでの広報活動に加え、新たな広報を設置前から実施する。以下にその方針及び戦略、実施計画・目標を説明する。

A. 方針・戦略

A-1：本校の学科構成が大きく変わることを、奈良県のみならず、近畿地区さらには、近畿以外の地区についても効果的に伝えていく。

A-2：奈良県については、15歳人口の本校への志願率が減っているため、特に丁寧な対応を行い。改組のPRとともに、奈良県内の中学生のニーズを再度収集することに努める。

A-3：大阪府、京都府、滋賀県についても重点地域を定めて、広報活動を推進する。特に大阪公立大高専の堺市への移転（2027年予定）、滋賀県立高専の設置（2028年予定）など近畿地区の高専の状況が大きく変化することを念頭に、PR活動に努める。

B. 実施計画・目標

B-1：改組に関する特設ホームページを作成し、広く改組の内容や魅力を周知する。

目標アクセス数は、他の広報との相乗効果も含めて【資料6】の表11に示すWebページのアクセス実績（41万7千件）の約1.5倍の63万件を目標とする。

B-2：中学校訪問を実施する。

中学校訪問の訪問数はコロナ禍などの影響もあり、コロナ前は100校近く訪問していたが、ここ数年20校以下であった。今回の改組は、大きな変化であるため、奈良県全域の中学校、大阪、京都、滋賀の主要な中学校への訪問を行う。

訪問目標中学校数は、200校とする。

B-3：改組に関するオンライン説明会の実施

中学生・保護者向け、中学校教員向け、塾の先生向けにオンラインでの説明会を行う。またその様子を収録したアーカイブ動画も公開する。

実施目標回数：令和6年度、令和7年度 各4回

B-4：改組予告リーフレットの作成と配布

改組の概要とその魅力をまとめたリーフレットを作成し、近隣の中学校への配布を行う。

配布目標枚数：1万5000枚（従来のリーフレットの1.5倍）

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

イのB-1～B-4の各取組を行った結果、見込まれる成果を以下に記す。

○改組に関する特設ホームページの効果

本校の入学者へのアンケート調査から本校に興味を持った理由のうち約20%（約40名）が「WEBがきっかけ」と答えている。現在の1.5倍のアクセス件数を目指すことにより、60名がこれをきっかけに本校に興味を持ってくれると考え、20名の増加が期待できる。

○中学校訪問の校数拡大の効果

コロナ禍で大和郡山市内以外の中学校訪問は縮小していたが、昨年度、生駒市8校の訪問を再開したところ、中学校の志願者が、前年に比べて20名から29名と1.45倍に増加した。訪問数を200校とすると、志願する中学生の在籍中学校の約80%程度をカバーすることができるので、令和6年度の志願者数（237名）に対して、 $237 \times 0.8 \times 1.45 = 274$ 名となり、37名の増加が期待できる。

○改組に関するオンライン説明会の効果

電気工学科が2020年に実施したオンライン公開講座では、38名の参加者があった。うち23名が中学3年生で、そのうち19名が本校を志願した。参加者の志願率は $19/23 = 83\%$ で

あった。また、学校全体で実施したオンラインオープンキャンパスでは、対面での体験入学を中止した令和3年度は、2日間で約500名（1日あたり250名）、体験入学とともに実施した令和4年度は2日間で約180名（1日あたり90名）の参加者があった。これらの実績から令和6年と7年に各4回計画するオンライン説明会からの志願者を以下のように見積もる。

α. 過去2年の1日あたりの参考者数平均（170名）に対し、合計8回実施するので：

$$170 \times 8 \text{日間} = 1360 \text{名}$$

β. 上記のうち令和8年度（もしくは9年度）改組の対象となる学年の生徒は、3学年のうち、1学年と考えて、 α （1360名） $\times 0.33 = 449$ 名

γ. 電気工学科のイベントに参加した中学生の志願率83%は、入試直前の3年生の数字であったため、数年先の改組では、この値の2/3の志願率と見越して $83\% \times 0.66 = 55\%$ が志願すると仮定して、 β （449名） $\times 0.55 = 247$ 名

この結果、令和6年度（237名）に比べて10名の増加となった。

○改組予告リーフレットの作成と配布の効果

本校の入学者へのアンケート調査から本校に興味を持った理由のうち約14%（約28名）が「パンフレットがきっかけ」と答えている。現在の1.5倍のリーフレット配布を目指すことにより、 $28 \text{名} \times 1.5 = 42 \text{名}$ がこれをきっかけに本校に興味を持ってくれると考え、 $42 - 28 = 14 \text{名}$ の増加が期待できる。

以上をまとめると、ホームページで20名、中学校訪問で37名、オンライン説明会で10名、リーフレットで14名の増加が期待できるが、これらの効果は、一人の受験生に対して複合的に作用するため、志願者の増加は単純な足し算とはならないが、40名程度の増加、すなわち、倍率で0.2倍の増加を見込みたい。

以上の結果を【資料5】の表10に加味すると、【資料7】の表12のようになり、改組によって学生の確保ができると考える。

②競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）

ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

奈良高専の特徴の一つに、(2)の①に示したように他高専に比べて県外の学生の入学者が多いことが挙げられる。そのため、競合する学校としては、奈良県以外の関西地区の高専が挙げられる。さらに、中学生の進学先として工業系、情報系、理数系の高校との競合が考えられる。

まず、【資料8】の表13に示した関西地区（2府4県）高専との比較で考える。定員の規模は、160～240名と本校と大きな違いはない、また、学費なども国立は同額、公立とも大きな開きはない。偏差値も64～69と大きな隔たりはない。このような状況から関西地区高専を競合校として設定した。そのうえで、今回の改組の核となる「専門分野とAIに強い奈良高専」という観点から、情報分野の教育について比較してみる。本校は、関西地区（2府4県）では、国立高専としては唯一の情報工学科を1986年から有している。他の国立高専は、いずれも情報系学科は、電気情報工学科もしくは電気電子分野と情報分野の複合学科であり、これらは1999年や2004年に名称変更などで設置されている。また、専攻科のシステム創成工学専攻情報システムコースを修了すれば、大学改革推進・学位授与機構から特例認定で情報の区分で工学の学位が授与される高専であり、これは、6つの国公立高専のなかでは、明石高専の電気情報工学科情報コース（20名程度）を除くと本校だけである。（大阪公立大学高専は、2022年に知能情報コースが設置しているが、専攻科の受入れは2022年4月を最後に停止する。）

このように本校は、これまでも関西地域の高専情報人材の輩出に長らく貢献してきたと言える。さらに、今回の改組によって、これまでの情報系人材輩出の歴史を生かしつつ情報工学科が情報科学科として高度化するだけでなく、その教育リソースを活用して、他の4学科にもAIや情報科学の教育内容を展開し、新たに2学科（システムデザイン工学科、物質創成化学科）として再編する。その結果、全3学科が「専門分野にAIの技術を

組み合わせることができる人材」を輩出するというユニークな改組となる。

さらに、どの学科からも、専攻科のシステム創成工学情報システムコースに進学すれば、情報の区分での学位が授与されるようなカリキュラム設計を目指している。具体的には、文部科学省の数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）に対応した教育を全学科の全学生対象に必修得科目として設定するとともに、専門分野ごとにその分野に対応したAI技術、IT技術を学ぶ科目を必修得科目として配置する。これは、他の高専にはない大きな特徴であると言え、差別化できている。

一方で、奈良高専は15歳から学生を受け入れているという観点からは、高校、特に工業系、理数系、情報系などの専門高校との競合が考えられる。【資料9】の表14に奈良県、大阪府、京都府の理工系専門高校を示す。青色に塗りつぶしているのは、偏差値が62以上（関西地区の高専の偏差値以上）の高校であり、学力的には本校との競合校となりうる高校であると考えた。その中から、本校への通学者が一定数いる地域（奈良県内、大阪市内南部、堺市、京都府南部）の5校を競合校として倍率などを【資料10】の表15に示した。競合校と比較した場合、本校には、高専という特色から以下のような優位性がある。

- 大学受験などを念頭に置かず5年間一貫の早期の技術者教育を実施できることから、高校のみならず大学にも負けない科目数の実験・実習科目が設定されている。
- 高専機構のモデルコアカリキュラムに則り、技術者教育のスタンダード化を行い、技術者として備えるべき能力を保障している。
- 専門学科及び理数系科目の教員は、博士の学位を持ち、研究者として活動しているため、研究指導力や、技術者・研究者を育成するための最新の技術動向を反映した教育・研究を自ら実施できる。それに対し、SSHなどでは、大学教員の支援を仰ぐ必要がある。
- 予算規模が国立であるため、県立・府立の高校では備えることができない高価な設備が数多く供えられている。また、教員自身が研究者として科研費などへの応募もでき、充実した教育研究環境が備わっている。
- 同じキャンパス内に15～22歳までの学生が在籍し、幅広いに年齢の学年を越えた交流を実施することができる。
- 産学連携で研究や教育に取り組む環境が確立しており、産業界とのパイプも高校に比べると圧倒的に太い。それらを学生の教育に日常的に活用しており、学生が将来を見据えた実践力を身につける機会が多い。
- 高専1～3年の授業料は、高校に比べ高額であるものの、高専卒業までと高校＋大学2年間までの授業料や、高専卒業＋専攻科修了と高校卒業＋大学卒業の授業料を比較すれば、高専の方が安価であるという特長もある。
- 高校に設定されている就学支援金や無償化の支援などについては、高専も同様の手当てを受けている。
- 高専からの就職は、高専の推薦を使うことができ、毎年、希望する学生はほぼ100%の就職率で就職できている。

イ. 競合校の入学志願状況等

競合校である関西地域の高専の各学科の入試倍率を【資料11】の表16に示す。いずれの高専もかつての3倍程度の倍率を維持していた時代とは異なり、少子化や理工系離れなどの傾向から以前のような高倍率ではない。地元密着であり、交通の便がよい公立高専は比較的高い倍率（神戸1.6、大阪公大2.0）であるが、国立高専は、明石が1.5倍、奈良と舞鶴は1.2倍となっている。和歌山は1.3倍であるが、定員割れをして追加募集した志願者も含まれて計算されている。また、【資料11】の表16は、第1志望学科で記したものであるため、定員を満たしていない学科もあるが、第2志望（場合によっては第3志望）の入学を認めていることや、2次募集（2023年度に和歌山高専、2021年度舞鶴高専）すること、いずれの高専も定員は充足している。

本校においては、機械工学科、電気工学科、電子制御工学科の3学科の倍率が1.0～1.1

倍と低い状況にある。これらの学科は、ものづくりの基幹産業を支える学科であるが、長い伝統があるため、中学生や保護者から「古い学問」、「先端技術でない」などの誤解がある。今回の改組で、この3つの学科を1つの学科に再編し、システムデザイン工学科とする。従来の専門分野にAI、ITの技術を応用できる技術者の養成という観点から、各コースに機械情報、電気電子情報、ロボティクス情報コースと情報という名称をつけ、専門分野を明確にしつつ、「情報」色を見せることを計画している。【資料11】の表16を見ると、青色で示した各高専の最も高い倍率の学科は、いずれも情報系であり、システムデザイン工学科が情報色を見せることで倍率の向上が期待できる。また、【資料10】の表15の高校の倍率でも、理数系への進学希望は高い倍率であることが分かる。

ウ. 新組織において定員が充足できる根拠等（競合校定員未充足の場合のみ）

競合校が定員を充足しているため、この記述を除くが、「④学生確保に関するアンケート調査」で定員充足の見込みについて述べる。

③先行事例分析

本校のような改組の参考となる先行事例は見いだせなかった。

④学生確保に関するアンケート調査

学生確保の見通しをつけるために近隣の中学校（大和郡山市立西中学校256名）の全中学生（回答者229名、回答率89%）に対してアンケート調査を行った。アンケート様式は【資料12】の通りである。なお、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引」によれば、アンケート対象者に必要な情報を提示して実施する必要があるため、本アンケート調査時点で確定していない本校改組案の内容に直接関係する設問はしていない。手引きにある「信頼性の高い情報の獲得に努めるように」とあるように、8月に予定されている体験入学時などで再度アンケートを実施する予定である。

アンケートの結果は、【資料13】のとおりである。問6のように、本校や理数系、情報系の学科への進学に興味がある生徒は、「ややある」、「すごくある」を合わせて31%、問7の技術者や研究者になりたいという希望者は17%であり、決して高い数字ではない。一方で、問4のAIや情報技術に対する関心は46%と半数近くが興味を持っていた。

これらの背景をもとに、問8では改組後の特色である専門分野に加えてAIなども学べることへの評価を聞いたところ、66%の生徒がこの変更を「良い」と評価していた。【資料13】の表17のクロス集計1より、本校への進学に興味がない層（42%）においても、そのうちの約半数が、AIが学べることにに対して好意的な評価をしている。

続いて、問9「専門分野にもAIにも強い奈良高専」とすることによる入学意思の変化については、「すごく入学したい」、「今より入学したい」が合わせて23%、「今と変わらない」という回答は72%であった。【資料13】の表17のクロス集計2より、もともと本校や理数系高校への進学希望がある層については、入学したい気持ちが強まる傾向がみられるが、特に注目すべきは、本校や理数系高校への進学の希望ない層の7%が「今より入学したい気持ちが強まった」と回答していることである。定員が全校で200名の本校にとっては、各中学校で1～2名でも受験者が増加すれば志願者倍率は大きく向上することになる。

さらに、ヒアリング調査では、現在の機械工学科、電気工学科、電子制御工学科の3つの学科が何を学ぶかイメージしにくいという声が聴かれていた。また、以前より、学科の選択は入学後（2年次に進級する段階で）にできないかとの意見が中学校校長会会長などから寄せられていた。今回の改組では、上記の3学科を1つの学科システムデザイン工学科に再編し、2年生でコース分けをすることにしている。このことに対する問10：「受験時には専門分野を選ばず入学して、すべての専門分野をある程度勉強してから、興味ある専門分野を選ぶことができるように変更することについてどう思いますか？」については、56%が良いという回答をしていた。【資料13】の表18のクロス集計3より、

本校への進学に興味がない層（42%）においても、40%が学科選択の変更について好意的な評価をしている。

以上のことから、本校が実施しようとしている改組については、中学生からは、①専門に加えてAIが学べること、②システムデザイン工学科が入学後にコース選択できることについて好意的な評価が得られ、また、③本校を志願したいという中学生が増加することが分かった。

⑤人材需要に関するアンケート調査等

AI、DX人材の必要性は、本校に求められている人材を把握するために実施したインターンシップ受け入れ可能企業へのアンケート結果からも明らかである。

令和5年度に受け入れ可能と回答のあった企業185社への技術系人材ニーズ調査アンケートの実施結果を【資料14】の表19～表21に示す。アンケートの有効回答数95社、回答率51.4%（95社/185社）であった。【資料14】の表19に情報系人材を必要と回答した企業数と回答企業全体に占める割合を示す。回答企業95社のうち、情報系人材が必要と答えた企業数は、過半数の60社（63.2%）である。内メーカー系企業47社、情報関連業12社、その他1社（ビルメンテナンス）であった。情報系人材が必要と答えた60社のうち、専門性の高い（DX：デジタルトランスフォーメーションや生成AIなどの）情報系人材が、今後必要と答えた企業は53社（88%）であった。以上のことから、専門性の高い情報系人材に対する期待が大きいことが裏付けられるとともに、機械系や電気系、化学系企業でもDX化を加速しており、従来の高い専門技術を身につけるだけでなく、AI活用やDXの推進に対応できる知識や技術を併せ持つ必要性が確認できた。

次に、【資料14】の表20に、企業が求める人材の専門分野別回答企業数を示す。なお、専門分野別の人材は重複回答可のため、回答企業数の合計は、【資料14】表19の有効回答企業数（95社）を上回っている。【資料14】の表20より、企業が求める専門分野別の人材のうち、機械系人材、電気系人材及び制御系人材が必要と回答した企業数は、いずれも有効回答企業95社の2/3（63社）を超えており、情報系人材も必要と回答した企業の割合も、2/3（67%）以上である。化学系人材が必要と回答した企業32社のうち、情報系人材も必要と回答した企業数は過半数の18社（56%）である。以上より、情報系専門人材のニーズ及び、機械系、電気系、制御系、化学系人材が必要と回答した企業において、情報系人材も必要と回答した企業が半数を超えることがニーズ調査から裏付けられた。

次に、情報系人材が必要と回答した企業60社の、専門分野別の企業数及び改組後の学科定員との関係を【資料14】の表21に示す。【資料14】の表21より、機械系企業及び電気系企業数の和は36社（60%）であり、これらの求人ニーズに答える改組後の学科は「システムデザイン工学科」（定員120名（60%））である。情報系企業数は12社（20%）、化学系企業数は11社（18%）であり、これらの求人ニーズに答える改組後の学科はそれぞれ「情報科学科」、「物質創成化学科」（各定員40名（20%））である。以上より、情報系人材が必要と回答した企業60社の専門分野別の企業割合と、改組後の学科定員割合とがほぼ一致しているとともに、回答のあった本校のインターンシップ受け入れ可能企業では、情報系企業からの情報系専門人材のニーズだけでなく、「機械系、電気系、制御系、化学系人材を必要とする各専門分野で情報系人材も必要」との回答がいずれの分野でも過半数を超えていることが調査データから裏付けられた。

さらに、地域産業の現状を把握するために実施した本校の産学連携組織（地域イノベーションコンソーシアム）所属の企業へのアンケート結果（26社から回答）では、1）「DXを進めているか」の問いに対して、はい：54%、進めたいが人材がいない：38%、進めていない：8%であり、2）「生成系AIを導入しているか」の問いに対して、はい：19%、進めたいが人材がいない：50%、進めていない：19%であった。さらに、3）「DXや生成系AIなどの情報系技術者は必要か」の問いについては、はい：73%、いいえ：12%と業種に寄らずDXやAIなどに対する高いニーズが読み取れた。このように、地域産業界では、情報産業以外の企業においてもデジタル化が急速に進み、デジタル化による業務効率化とともに「量より質」の人

材確保が地域産業の現場でも進んでいることが分かる。一方で、専門分野の技術開発に携わる人材は必須であり、奈良県周辺の企業でも専門分野の基盤的知識・技術と応用力をしっかりと身につけ、情報技術・AI 技術を活用できる基礎的知識も兼ね備えた軸となる人材の育成に対する要望も強いと言える。

（４）新設組織の定員設定の理由

高等専門学校を設置基準では、40 名で 1 学級とすることが定められており、それを前提に改組を行うため、40 名×5 学級の構成となった。機械、電気、電子制御の各学科は、入試倍率は低いものの産業界からの求人倍率は依然として最も高い。そのため、これらの学科を縮小することはせずに、そのまま維持することとした。今回の改組では、志願者からの人気が高い、情報工学科を AI、DX、ビジネス展開などに対応できるように、より高度化した情報科学科にすること、その他の学科に情報の要素を入れて新たな志願者の確保と、AI 時代に変化する社会ニーズに応えることを目的としており、この定員の設定が合理的であると考えている。

学生の確保の見通し等を記載した書類（資料）

【資料１】改組の概要 既存学科との関係	p. 2
【資料２】奈良県のデジタル化のニーズ	p. 4
【資料３】15歳人口の推定値	p. 6
【資料４】本校の入試実績 都道府県別	p. 8
【資料５】志願者の予想値	p. 10
【資料６】本校のWebページのアクセス状況	p. 12
【資料７】新規の取組を行うことで見込まれる改組後の志願者数	p. 13
【資料８】関西地区の高専の状況	p. 14
【資料９】奈良県・大阪府・京都府の情報系，理数系が設定されている高校	p. 15
【資料10】競合校として考えられる近隣の高校の入試倍率	p. 16
【資料11】競合校として考えられる関西地区の高専の志願者倍率	p. 17
【資料12】郡山西中学校に実施したアンケートのフォーマット	p. 18
【資料13】郡山西中学校に実施したアンケートと集計結果，分析結果	p. 22
【資料14】奈良高専のインターンシップ受け入れ可能企業への技術系人材のニーズ調査 アンケート	p. 29

【資料 1】改組の概要 既存学科との関係

表 1 既設学科と新設学科の関係

既設学科			新設学科		
学科名称	入学定員	収容定員	学科名称	入学定員	収容定員
機械工学科	40	200	システムデザイン工学科 機械情報コース 電気電子情報コース ロボティクス情報コース	120	600
電気工学科	40	200			
電子制御工学科	40	200			
情報工学科	40	200	情報科学科 コンピュータサイエンス コース データサイエンスコース	40	200
物質化学工学科	40	200	物質創成化学科	40	200

※既設の 5 学科（左欄）を対応する右欄の新設学科に改組する。

既設学科の学生募集は、新設学科の開設とともに停止する。

表 2 改組前の学位の区分

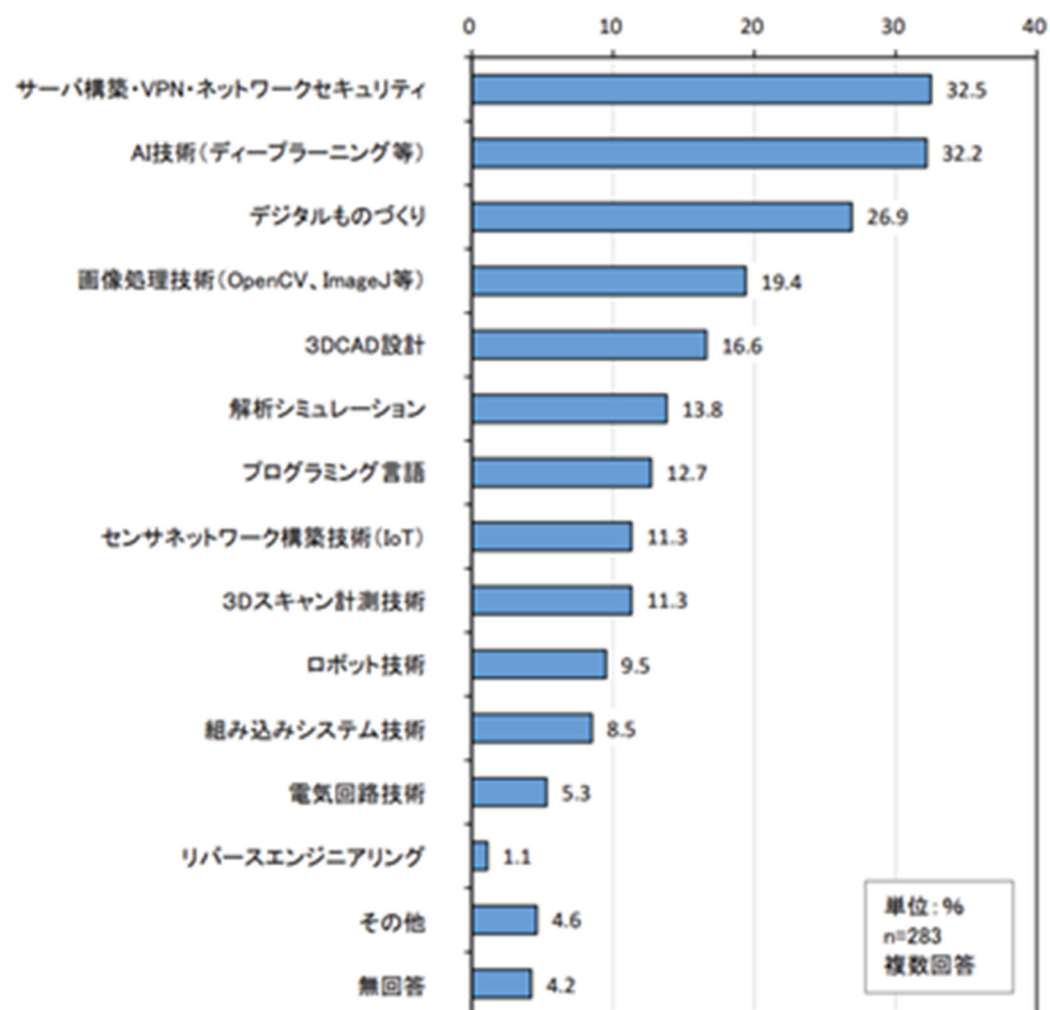
本科	専攻科		学位の区分			
			機械工学	電気電子工学	情報工学	応用化学
機械工学科	システム創成工学専攻	機械制御システムコース	○			
電気工学科	システム創成工学専攻	電気電子システムコース		○		
電子制御工学科	システム創成工学専攻	機械制御システムコース	○			
	システム創成工学専攻	電気電子システムコース		○		
	システム創成工学専攻	情報システムコース			○	
情報工学科	システム創成工学専攻	情報システムコース			○	
	システム創成工学専攻	電気電子システムコース		○		
物質化学工学科	物質創成工学専攻					○

※大学改革推進・学位授与機構から授与される工学の学位の区分

表3 改組後の学位の区分（予定）

本科		専攻科	学位の区分			
			機械工学	電気電子工学	情報工学	応用化学
システムデザイン工学科	機械情報コース	システム創成工学専攻 機械制御システムコース	○			
		システム創成工学専攻 情報システムコース			○	
	電気電子情報コース	システム創成工学専攻 電気電子システムコース		○		
		システム創成工学専攻 情報システムコース			○	
	ロボティクス情報コース	システム創成工学専攻 機械制御システムコース	○			
		システム創成工学専攻 電気電子システムコース		○		
		システム創成工学専攻 情報システムコース			○	
情報科学科		システム創成工学専攻 情報システムコース			○	
		システム創成工学専攻 電気電子システムコース		○		
物質創成化学科		物質創成工学専攻				○
(選択科目を履修した学生)		システム創成工学専攻 情報システムコース			○	

【資料 2】 奈良県のデジタル化のニーズ



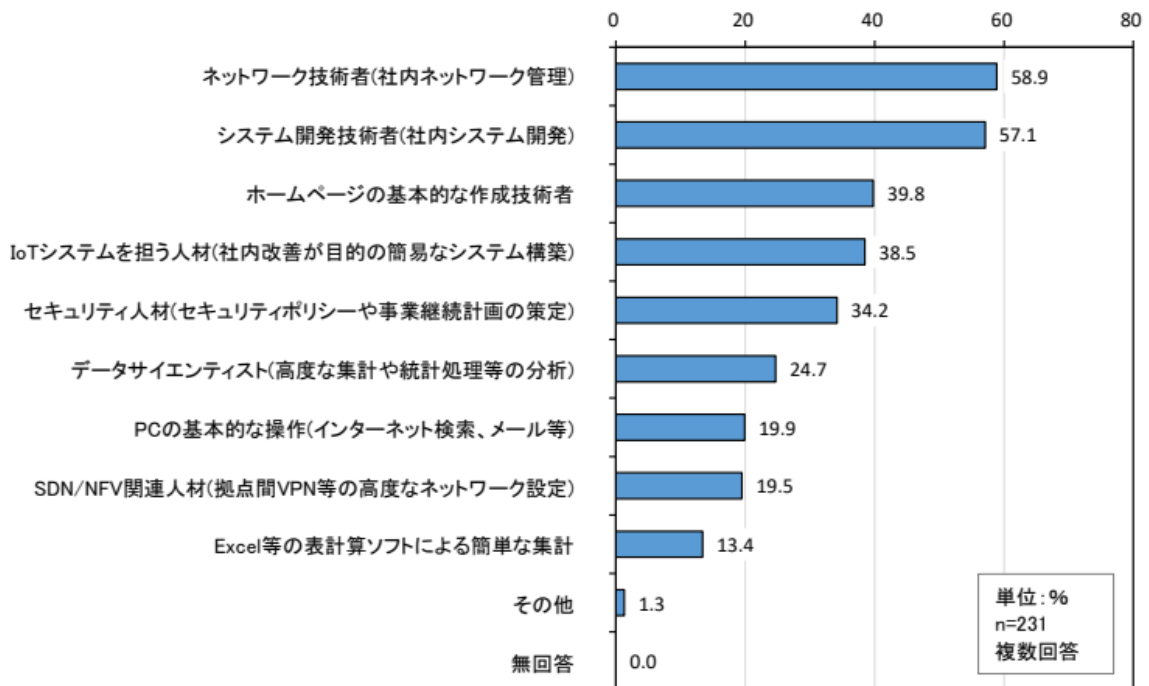


図2 奈良県デジタル化実態調査でのデジタル化推進に不足している人材

【資料3】15歳人口の推定値

表4 都道府県，年齢（5歳階級）統計データ

	年齢	全国	奈良	大阪	京都	滋賀	三重	和歌山	兵庫	15歳になる年
2023年 10月 人口	0～4歳	4,087,476	40,324	296,441	78,525	52,393	55,872	27,708	180,732	R16-20
	5～9	4,837,937	49,254	330,655	93,671	61,963	66,681	33,430	213,818	R11-15
	10～14	5,247,832	55,456	357,100	102,619	67,998	75,631	37,484	234,721	R6-R10
	15～19	5,493,550	60,425	381,642	115,338	70,273	80,031	39,047	245,679	H31-R5
	20～24	6,235,906	61,867	491,617	154,433	75,657	79,223	34,429	259,560	H27-H31
全国比	0～4歳	100%	1.0%	7.3%	1.9%	1.3%	1.4%	0.7%	4.4%	R16-20
	5～9	100%	1.0%	6.8%	1.9%	1.3%	1.4%	0.7%	4.4%	R11-15
	10～14	100%	1.1%	6.8%	2.0%	1.3%	1.4%	0.7%	4.5%	R6-R10
	15～19	100%	1.1%	6.9%	2.1%	1.3%	1.5%	0.7%	4.5%	H31-R5
	20～24	100%	1.0%	7.9%	2.5%	1.2%	1.3%	0.6%	4.2%	H27-H31

※全国比：府県の人口を全国の人口で除したもの

政府統計の総合窓口 (<https://www.e-stat.go.jp/>) より

表5 15歳人口の推定値

2023年 年齢	年度	15歳人口(千人)							
		統計値	推定						
		全国	奈良	大阪	京都	滋賀	三重	和歌山	兵庫
24歳	平成27年	1280	13	101	32	16	16	7	53
19歳	令和2年	1156	13	80	24	15	17	8	52
18歳	令和3年	1089	12	76	23	14	16	8	49
17歳	令和4年	1075	12	75	23	14	16	8	48
16歳	令和5年	1084	12	75	23	14	16	8	48
15歳	令和6年	1090	12	76	23	14	16	8	49
14歳	令和7年	1070	11	73	21	14	15	8	48
13歳	令和8年	1065	11	72	21	14	15	8	48
12歳	令和9年	1056	11	72	21	14	15	8	47
11歳	令和10年	1030	11	70	20	13	15	7	46
10歳	令和11年	1027	11	70	20	13	15	7	46
9歳	令和12年	1002	10	68	19	13	14	7	44
8歳	令和13年	1004	10	69	19	13	14	7	44
7歳	令和14年	979	10	67	19	13	13	7	43
6歳	令和15年	939	10	64	18	12	13	6	42
5歳	令和16年	915	9	63	18	12	13	6	40
4歳	令和17年	871	9	63	17	11	12	6	39
3歳	令和18年	835	8	61	16	11	11	6	37
令和18年 ／令和8年比		78%	73%	84%	77%	78%	74%	74%	78%

※令和5年10月の年齢別人口（全国）の統計値と、表1の府県別の人口比から、令和18年までの15歳人口を計算した。

（例）奈良県の令和14年の15歳人口の計算方法

令和5年の7歳が令和14年には15歳になる。全国で97万9千人いる。

これに表1の奈良県の人口全国比（5～9歳）の1%を乗ずると約1万人となる。

【資料 4】 本校の入試実績 都道府県別

表 6 本校の都道府県別 入学者割合

年度	奈良	大阪	京都	滋賀	三重	和歌山	兵庫	その他	
R7	59.4%	18.3%	14.4%	2.0%	1.4%	0.0%	1.0%	3.5%	北海道1、埼玉1、山梨1、香川1、鹿児島1、シンガポール、中華人民共和国
R6	58.9%	20.8%	13.0%	3.0%	1.0%	0.5%	1.4%	1.4%	神奈川1、広島1、山口1
R5	54.1%	20.6%	16.3%	1.4%	2.4%	0.9%	1.4%	2.9%	静岡2、岐阜1、愛知1、香川1、ベトナム1
R4	55.2%	14.8%	15.7%	6.2%	1.0%	0.5%	3.3%	3.3%	北海道1、千葉1、岡山2、愛知3
R3	61.0%	17.6%	12.2%	2.4%	1.0%	2.4%	1.5%	1.9%	岡山1、福島1、愛媛1、静岡1
過去5年平均	57.7%	18.4%	14.3%	3.0%	1.4%	0.9%	1.7%	2.6%	
H28	64.8%	18.5%	10.7%	2.0%	2.0%	0.5%	1.0%	0.5%	岐阜1
10年前からの増減	-7.1%	-0.1%	3.6%	1.0%	-0.6%	0.4%	0.7%	2.1%	

表 7 本校の都道府県別 志願者数

	奈良	大阪	京都	滋賀	三重	兵庫	和歌山	その他	計
R7	131	38	29	5	3	2	0	10	218
R6	139	49	33	7	2	2	2	3	237
R5	133	49	39	3	7	3	2	6	242
R4	152	33	42	14	4	7	2	7	261
R3	156	38	32	5	3	3	5	5	247
5年平均	142	41	35	7	4	3	2	6	241
H28	200	53	42	7	6	3	1	2	314
10年前からの増減率	-29%	-23%	-17%	0%	-33%	0%	100%	200%	-23%

※増減率＝（5年平均-H28）/H28

表 8 本校の都道府県別 志願者の割合

	奈良	大阪	京都	滋賀	三重	兵庫	和歌山	その他
R7	60.1%	17.4%	13.3%	2.3%	1.4%	0.9%	0.0%	4.6%
R6	58.7%	20.7%	13.9%	3.0%	0.8%	0.8%	0.8%	1.3%
R5	55.0%	20.3%	16.1%	1.2%	2.9%	1.2%	0.8%	2.5%
R4	58.2%	12.6%	16.1%	5.4%	1.5%	2.7%	0.8%	2.7%
R3	63.2%	15.4%	13.0%	2.0%	1.2%	1.2%	2.0%	2.0%
5年平均	59.0%	17.3%	14.5%	2.8%	1.6%	1.4%	0.9%	2.6%
H28	63.7%	16.9%	13.4%	2.2%	1.9%	1.0%	0.3%	0.6%
10 年前 からの 増減	-4.7%	0.4%	1.1%	0.6%	-0.3%	0.4%	0.6%	2.0%

【資料５】志願者の予想値

表 9 本校の都道府県別 15 歳人口あたりの志願者割合

		奈良	大阪	京都	滋賀	三重	兵庫	和歌山	その他
実績	H27	1.40%	0.050%	0.151%	0.039%	0.006%	0.028%	0.004%	0.0002%
	R2	1.48%	0.073%	0.169%	0.061%	0.036%	0.037%	0.000%	0.0004%
	R3	1.30%	0.050%	0.140%	0.036%	0.019%	0.039%	0.010%	0.0005%
	R4	1.29%	0.044%	0.186%	0.102%	0.026%	0.092%	0.004%	0.0007%
	R5	1.12%	0.065%	0.171%	0.022%	0.044%	0.039%	0.004%	0.0006%
	R6	1.16%	0.065%	0.144%	0.050%	0.013%	0.026%	0.004%	0.0003%
	5年平均	1.27%	0.060%	0.162%	0.054%	0.027%	0.046%	0.005%	0.0005%
	10年前との増減	-0.13%	0.010%	0.011%	0.015%	0.021%	0.018%	0.001%	0.0002%
	年間増減	-	0.0010%	0.0011%	0.0015%	0.0021%	0.0018%	0.0001%	0.00002%
予想値	R7	1.268%	0.061%	0.163%	0.0556%	0.0295%	0.0481%	0.0046%	0.0005%
	R8	1.268%	0.062%	0.164%	0.057%	0.032%	0.050%	0.005%	0.0005%
	R9	1.268%	0.063%	0.165%	0.059%	0.034%	0.052%	0.005%	0.0005%
	R10	1.268%	0.064%	0.166%	0.060%	0.036%	0.054%	0.005%	0.0006%
	R11	1.268%	0.065%	0.167%	0.062%	0.038%	0.055%	0.005%	0.0006%
	R12	1.268%	0.066%	0.169%	0.063%	0.040%	0.057%	0.005%	0.0006%
	R13	1.268%	0.067%	0.170%	0.065%	0.042%	0.059%	0.005%	0.0006%
	R14	1.268%	0.068%	0.171%	0.066%	0.044%	0.061%	0.005%	0.0007%
	R15	1.268%	0.069%	0.172%	0.068%	0.047%	0.063%	0.005%	0.0007%
	R16	1.268%	0.070%	0.173%	0.070%	0.049%	0.064%	0.005%	0.0007%
	R17	1.268%	0.071%	0.174%	0.071%	0.051%	0.066%	0.005%	0.0007%
	R18	1.268%	0.072%	0.175%	0.073%	0.053%	0.068%	0.005%	0.0008%

※表の値の計算方法

(5年平均) = R2～R6 の平均値

(10年前との増減) = (5年平均値) - (R27 年値)

(年間増減) = (10年前との増減) / 10

予想値：奈良県は、5年平均値を維持、他府県は、毎年の値に年間増減値を加えた値

表 10 志願者の予想
(a) 3 %の増加を考慮しない場合

	人数									
	奈良	大阪	京都	滋賀	三重	兵庫	和歌山	その他	合計	倍率
R8	143	45	34	8	5	4	2	6	246	1.23
R9	142	45	34	8	5	4	2	6	246	1.23
R10	138	45	34	8	5	4	2	6	241	1.21
R11	138	45	34	8	6	4	2	6	243	1.21
R12	129	45	33	8	6	4	2	6	233	1.16
R13	130	46	33	8	6	4	2	6	235	1.18
R14	126	45	32	8	6	4	2	7	231	1.16
R15	121	44	31	8	6	4	2	6	223	1.12
R16	118	43	31	8	6	4	2	7	219	1.10
R17	109	45	29	8	6	4	2	6	209	1.05
R18	104	43	28	8	6	4	2	6	202	1.01

(b) 3 %の増加を考慮した場合

	人数									
	奈良	大阪	京都	滋賀	三重	兵庫	和歌山	その他	合計	倍率
R8	147	46	35	8	5	4	2	6	253	1.27
R9	146	46	35	8	5	4	2	6	253	1.27
R10	142	46	35	8	5	4	2	6	244	1.24
R11	142	46	35	8	6	4	2	6	250	1.25
R12	133	46	34	8	6	4	2	6	240	1.20
R13	134	47	34	9	6	4	2	7	242	1.21
R14	130	47	33	9	6	4	2	7	238	1.19
R15	125	45	32	8	6	4	2	7	230	1.15
R16	122	45	32	8	6	4	2	7	226	1.13
R17	112	46	30	8	6	4	2	7	215	1.08
R18	108	45	29	8	6	4	2	7	208	1.04

【資料 6】 本校の Web ページのアクセス状況

表 11 2024 年度の本校の入試関係 Web ページのアクセス状況

公式Webトップページ	356,659
入学案内&入試情報	120,125
卒業後の進路状況	19,702
学生募集要項	83,233
入試説明会	13,157
受験生の方へ	5,811
奨学金・授業料免除等	11,126
3つの強み	2,074
合計	611,887

【資料 7】新規の取組を行うことで見込まれる改組後の志願者数

表 12 改組後の志願者見込み数

	人数										
	奈良	大阪	京都	滋賀	三重	兵庫	和歌山	その他	新規広報	合計	倍率
R7	148	45	35	8	5	4	2	5	0	252	1.26
R8	147	46	35	8	5	4	2	6	40	293	1.47
R9	146	46	35	8	5	4	2	6	40	293	1.47
R10	142	46	35	8	5	4	2	6	40	289	1.44
R11	142	46	35	8	6	4	2	6	40	290	1.45
R12	133	46	34	8	6	4	2	6	40	280	1.40
R13	134	47	34	9	6	4	2	7	40	282	1.41
R14	130	47	33	9	6	4	2	7	40	278	1.39
R15	125	45	32	8	6	4	2	7	40	270	1.35
R16	122	45	32	8	6	4	2	7	40	266	1.33
R17	112	46	30	8	6	4	2	7	40	255	1.28
R18	108	45	29	8	6	4	2	7	40	248	1.24

【資料 8】 関西地区の高専の状況

表 13 関西地区高専の学科、偏差値、学位、モデルコアカリキュラム対応

	国立		
	奈良(現行)	奈良(改組後)	舞鶴
I 学年の定員	200	200	160
本科の学科	機械工学科 電気工学科 情報工学科(S61) 電子制御工学科 物質化学工学科	システムデザイン工学科 (機械情報コース 電気電子情報コース ロボティクス情報コース) 情報科学科 (コンピュータ サイエンスコース データサイエンスコー ス) 物質化学工学科	機械工学科 電気情報工学科(H16) 電子制御工学科 建設システム工学科
偏差値※	67	—	62
専攻科 情報区分の学位	○	◎ 全学科が対応予定	×
モデルコアカリキュラム 情報への対応 △:複合学科対応	○ 情報工学科	○ 情報科学科	△電気情報工学科
情報系学科の倍率	1 位	—	1 位

※みんなの高校情報 (<https://www.minkou.jp/hischool/>)<2024.6.20参照>

	国立	
	明石	和歌山
I 学年の定員	160	160
本科の学科	機械工学科 電気情報工学科(H11) 都市システム工学科 建設学科	知能機械工学科 電気情報工学科(H16) 生物応用化学科 環境都市工学科
偏差値※	67~69	65
専攻科 情報区分の学位	○ 電気情報工学科 情報コース	×
モデルコアカリキュラム 情報への対応 △:複合学科対応	○ 電気情報工学科 情報コース	△電気情報工学科
情報系学科の倍率	1 位	1 位

	公立	
	神戸市立	大阪公立大
I 学年の定員	240	160
本科の学科	機械工学科 電気工学科 電子工学科 応用化学科 都市工学科	総合工学システム学科 (エネルギー機械コース プロダクトデザインコース エレクトロニクスコース 知能情報コース)
偏差値※	64	64
専攻科 情報区分の学位	×	募集停止(2025以降)
モデルコアカリキュラム 情報への対応 △:複合学科対応	—	—
情報系学科の倍率	—	—

【資料9】奈良県・大阪府・京都府の情報系，理数系が設定されている高校

表 14 奈良県・大阪府・京都府の情報系，理数系が設定されている高校の概要

奈良県

学校名	奈良県立 奈良北高校	奈良県立 王寺工業高等学校	奈良県立 奈良南高等学校	奈良県立 宇陀高等学校
情報系・理数系学科	数理情報科	情報電子工学科	情報科学	情報科学
募集人員	80	74	40	40
偏差値	59	43	39	37
所在地	生駒市	北葛城郡王寺町	吉野郡	宇陀市
倍率	0.74	特色等倍率1.04 一般倍率0.33	特色等倍率1.00 一般倍率0.20	特色等倍率1.00 一般倍率0.11

大阪府

学校名	大阪府立 千里高等学校	大阪府立 住吉高等学校	大阪府立 東高等学校	大阪府立 泉北高等学校
情報系・理数系学科	総合科学科	総合科学科	理数科	総合科学科
募集人員	155	158	80	119
偏差値	67	64	63	60
所在地	吹田市	阿倍野区	都島区	堺市南区
倍率	1.48	1.21	1.11	1.08

学校名	大阪府立 いちりつ高等学校	大阪府立 都島工業高等学校	岸和田市立 産業高等学校	堺市立 堺高等学校
情報系・理数系学科	理数科	理数工学科	情報科	サイエンス創造科
募集人員	40	70	80	40
偏差値	59	53	48	48
所在地	枚方市	都島区	岸和田市	堺市堺区
倍率	0.93	0.94	1.03	0.68

京都府

学校名	京都府立 南陽高等学校	京都府立 桃山高等学校	京都府立 城南菱創高等学校
情報系・理数系学科	サイエンスリサーチ科	自然科学科	教養科学科
募集人員	80	80	80
偏差値	67	67	65
所在地	木津川市	伏見区	宇治市
倍率	1.76	2.3	1.71

学校名	京都府立 木津高等学校	京都府立 京都すばる高等学校
情報系・理数系学科	情報企画科	情報科学科
募集人員	40	80
偏差値	42	48
所在地	木津川市	伏見区
倍率	前期1.11 中期0.05	前期1.11 中期0.08

※青い塗りつぶしは，偏差値が62以上の高校（偏差値：みんなの高校情報
<https://www.minkou.jp/hischool/>）＜2025.12.1 参照＞

【資料 10】競合校として考えられる近隣の高校の入試倍率

表 15 競合校として考えられる近隣の高校の入試倍率

学校名		大阪府立 住吉高等学校	大阪府立 泉北高等学校
情報系・理数系学科		総合科学科	総合科学科
募集人員		114	119
偏差値		64	60
所在地		阿倍野区	堺市南区
倍率	R7	1.26	1.04
	R6	1.33	1.03
	R5	1.17	1.17
	平均	1.25	1.08
令和7年度入試日程		3月12日	3月12日
SSH 指定校		SSH	SSH

学校名		京都府立 南陽高等学校	京都府立 桃山高等学校	京都府立 城南菱創高等学校
情報系・理数系学科		サイエンスリサーチ科	自然科学科	教養科学科
募集人員		80	80	80
偏差値		67	67	65
所在地		木津川市	伏見区	宇治市
倍率	R7	1.76	2.3	1.71
	R6	1.75	2.13	1.41
	R5	1.43	2.65	2.01
	平均	1.65	2.36	1.71
令和7年度入試日程		2月17日, 18日	2月17日, 18日	2月17日, 18日
SSH 指定校			SSH	

【資料 11】競合校として考えられる関西地区の高専の志願者倍率

表 16 競合校として考えられる関西地区の高専の志願者倍率

			R5	R6	R7	3年間平均	定員の充足
国立	奈良	機械工学科	1.2	1	0.9	1.0	◎ 学校平均 倍率 1.2
		電気工学科	0.9	1	0.7	0.9	
		電子制御工学科	1.2	1.1	1.2	1.2	
		情報工学科	1.5	1.6	1.5	1.5	
		物質化学工学科	1.3	1.3	1.1	1.2	
	舞鶴	機械工学科	0.9	1.3	1.3	1.2	◎ 学校平均 倍率 1.2
		電気情報工学科	1.5	1.1	1.2	1.3	
		電子制御工学科	1.1	1.1	0.9	1.0	
		建設システム工学科	1.1	1.1	1.2	1.1	
	明石	機械工学科	1.4	0.9	1.2	1.2	◎ 学校平均 倍率 1.5
		電気情報工学科	2.2	2.3	1.5	2.0	
		都市システム工学科	1.4	0.8	1.1	1.1	
		建設学科	1.5	1.4	1.5	1.5	
	和歌山※	知能機械工学科	1.7	1.8	1.8	1.8	◎ 学校平均 倍率 2.0
		電気情報工学科	2.5	2.3	2.3	2.4	
		生物応用化学科	1.7	1.9	1.9	1.8	
		環境都市工学科	1.7	1.8	1.8	1.8	
公立	神戸	機械工学科	1.6	1.9	0.9	1.5	◎ 学校平均 倍率 1.5
		電気工学科	1.6	1.1	1.6	1.4	
		電子工学科	1.9	2	2	1.8	
		応用化学科	1.8	1.2	1.8	1.6	
		都市工学科	1.5	1	1.3	1.3	
	公立大	総合工学システム学科	1.9	2.1	2.1	2.0	◎

※和歌山高専は、第2志望で入学した生徒を入学した学科の志願者として集計している。

水色は入試倍率が一番高い学科（和歌山は、知能機械に2次募集が含まれている）

【資料 12】郡山西中学校に実施したアンケートのフォーマット

奈良高専についてのアンケート

奈良高専は、時代の変化に対応して教育内容や学科の見直しをしています。中学生の皆さんの意見を参考にして、より身近に感じてもらえる高専にしたいと思っていますので、以下のアンケートにお答えください。数分程度で回答できるような内容です。なお、個人が特定できるような情報は一切集めません。本アンケートの結果は高専や関係の国の機関などへ提出する書類に活用する他、広報関係の資料に使わせていただく場合があります。ご協力よろしくお願いします。

* 必須

1. あなたの学年を教えてください *

- ☐ 1 年
- ☐ 2 年
- ☐ 3 年

2. あなたの性別を教えてください *

- ☐ 男性
- ☐ 女性
- ☐ その他
- ☐ 回答しない

3. あなたは、数学や理科が好きですか？ *

- ☐ とても好き
- ☐ やや好き
- ☐ どちらともいえない 分からない
- ☐ あまり好きでない
- ☐ まったく好きでない

4. AIや情報技術（IT）に対して興味がありますか？ *

- ☐ すぐある
- ☐ ややある
- ☐ どちらともいえない 分からない
- ☐ あまりない
- ☐ まったくない

5. あなたは奈良高専という学校を知っていますか？ *

- ☐ 知っている
- ☐ 知らない

6. 奈良高専やスーパーサイエンスハイスクール（SSH）、高校の理数系学科、情報系学科、工業高校などの工業系・理数系への進学に興味がありますか？ *

- ☐ すぐある
- ☐ ややある
- ☐ どちらともいえない 分からない
- ☐ あまりない
- ☐ まったくない

7. あなたは将来 エンジニア（技術者）や研究者になりたいという希望がありますか？ *

- ☐ すぐある
- ☐ ややある
- ☐ どちらともいえない 分からない
- ☐ あまり無い
- ☐ まったく無い

8. 奈良高専では、今の5学科の専門分野（機械、電気電子、ロボット、情報、化学）の勉強に加えてAIなどの情報分野も勉強できる学校にしようとしています。このような変更についてあなたの考えを教えてください。*

- ☐ とても良いと思う（専門分野に加えてAIも学びたい）
- ☐ やや良いと思う
- ☐ どちらともいえない 分からない
- ☐ あまり良くないと思う
- ☐ まったく良くないと思う（専門分野を学ぶことに集中したい）

9. 奈良高専は、「専門分野にもAIにも強い奈良高専」として、専門分野（機械、電気、ロボット、情報、化学）にAIを組み合わせることができる人材を養成しようとしています。このような変更をしたことで、あなたの奈良高専への入学したいという気持ちはどうなりますか？*

- ☐ AIが学べることで、今よりすぐ入学したいと思った
- ☐ AIが学べることで、どちらかというと今より入学したいと思った
- ☐ 今とあまり変わらない
- ☐ AIを学ぶことで、どちらかというと今より入学したくないと思った
- ☐ AIを学ぶことで、入学したい気持ちがなくなった

10. 今は、受験時に5つの専門分野の学科から1つの学科を選ぶという入学試験を行っています。これを、受験時には専門分野を選ばず入学して、すべての専門分野をある程度勉強してから、興味ある専門分野を選ぶことができるように変更することについてどう思いますか？（例えば、2年生になってから専門分野を決められる）*

- ☐ とても良いと思う
- ☐ やや良いと思う
- ☐ どちらともいえない 分からない
- ☐ あまり良くないと思う
- ☐ まったく良くないと思う

11. 機械、電気電子、ロボットの分野の勉強ができる新しい学科が1つできるとします。あなたが、進学したいと感じる名前はどれですか？ *

- ☐ 先端融合工学科（せんたんゆうごう こうがくか）
- ☐ 融合基礎工学科（ゆうごうきそ こうがくか）
- ☐ 共創工学科（きょうそう こうがくか）
- ☐ 総合システム工学科（そうごうしすてむ こうがくか）
- ☐ システムデザイン工学科（しすてむでざいん こうがくか）
- ☐ 特にない

このコンテンツは Microsoft によって作成または承認されたものではありません。送信したデータはフォームの所有者に送信されます。

 Microsoft Forms

【資料 13】郡山西中学校に実施したアンケートと集計結果、分析結果

◎調査対象とした中学校：大和郡山市立郡山西中学校

選定の根拠：本校に最近接の中学校であり，本校に対する認知度（94%）も高く，毎年一定数の進学者がいるため。

◎調査に用いた調査票様式：次ページの問いで Microsoft Forms 利用してアンケートを実施した。

◎調査回答者に提示した新設組織に関する資料：特になし。

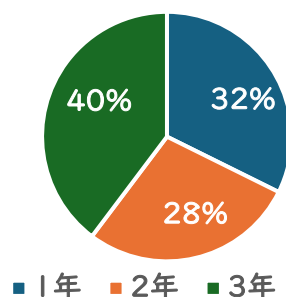
まだ，高専機構への伺い前であるため，新設学科の詳細な説明は中学生にできないと判断した。

◎アンケート結果。

問1 あなたの学年を教えてください

【選択肢】

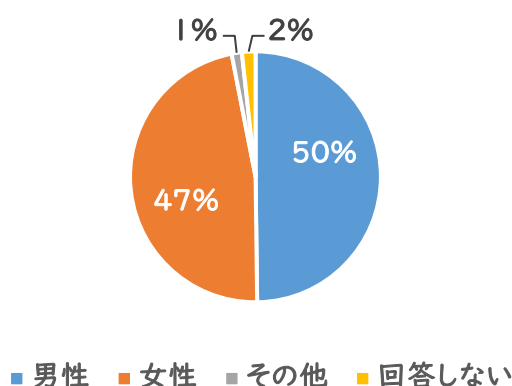
- ・ 1 年
- ・ 2 年
- ・ 3 年



問2 あなたの性別を教えてください

【選択肢】

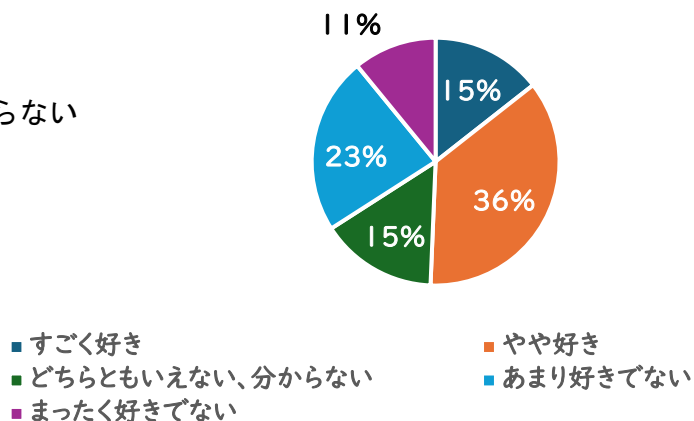
- ・ 男性
- ・ 女性
- ・ その他
- ・ 回答しない



問3 あなたは，数学や理科が好きですか？

【選択肢】

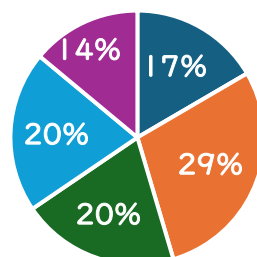
- ・ すごく好き
- ・ やや好き
- ・ どちらともいえない 分からない
- ・ あまり好きでない
- ・ まったく好きでない



問4 AI や情報技術（IT）に対して興味がありますか？

【選択肢】

- ・ すごくある
- ・ ややある
- ・ どちらともいえない 分からない
- ・ あまりない
- ・ まったくない

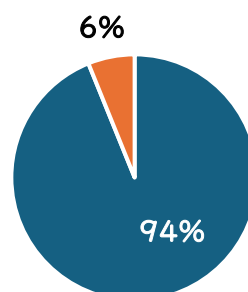


- すごくある
- ややある
- どちらともいえない、分からない
- あまりない
- まったくない

問5 あなたは奈良高専という学校を知っていますか？

【選択肢】

- ・ 知っている
- ・ 知らない

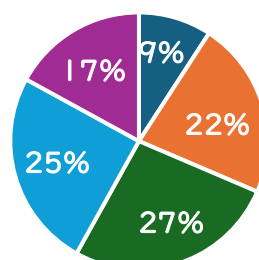


- 知っている
- 知らない

問6 奈良高専やスーパーサイエンス ハイスクール（SSH）、高校の理数系学科、情報系学科、工業高校などの工業系・理数系への進学に興味がありますか？

【選択肢】

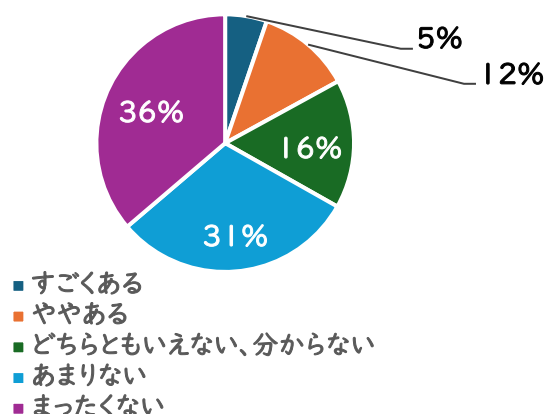
- ・ すごくある
- ・ ややある
- ・ どちらともいえない 分からない
- ・ あまりない
- ・ まったくない



- すごくある
- ややある
- どちらともいえない、分からない
- あまりない
- まったくない

問7 あなたは将来 エンジニア（技術者）や研究者になりたいという希望がありますか？
【選択肢】

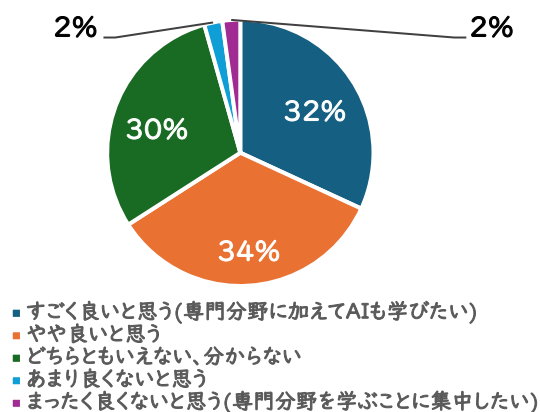
- ・ すごくある
- ・ ややある
- ・ どちらともいえない 分からない
- ・ あまりない
- ・ まったくない



問8 奈良高専では、今の5学科の専門分野（機械、電気電子、ロボット、情報、化学）の勉強に加えて AI などの情報分野も勉強できる学校にしようとしています。このような変更についてあなたの考えを教えてください。

【選択肢】

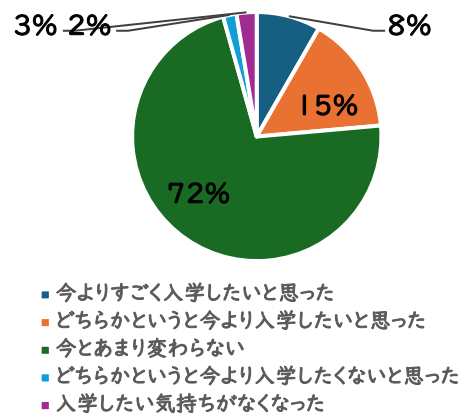
- ・ すごく良いと思う（専門分野に加えて AI も学びたい）
- ・ やや良いと思う
- ・ どちらともいえない 分からない
- ・ あまり良くないと思う
- ・ まったく良くないと思う（専門分野を学ぶことに集中したい）



問9 奈良高専は、「専門分野にも AI にも強い奈良高専」として、専門分野（機械、電気、ロボット、情報、化学）に AI を組み合わせることができる人材を養成しようとしています。このような変更をしたことで、あなたの奈良高専へ入学したいという気持ちはどうなりますか？

【選択肢】

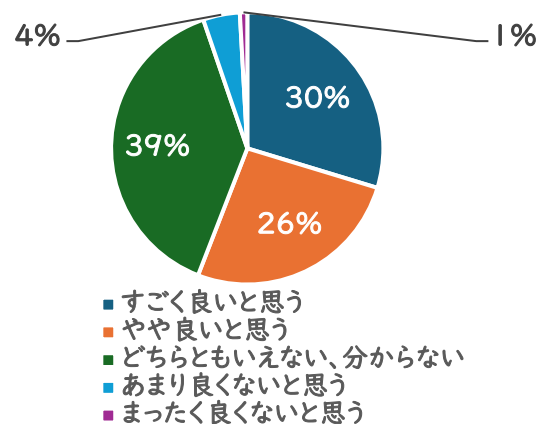
- ・ AI が学べることで、今よりすごく入学したいと思った
- ・ AI が学べることで、どちらかという今より入学したいと思った
- ・ 今とあまり変わらない
- ・ AI を学ぶことで、どちらかという今より入学したくないと思った
- ・ AI を学ぶことで、入学したい気持ちがなくなった



問10 今は、受験時に5つの専門分野の学科から1つの学科を選ぶという入学試験を行っています。これを、受験時には専門分野を選ばず入学して、すべての専門分野をある程度勉強してから、興味ある専門分野を選ぶことができるように変更することについてどう思いますか？（例えば、2年生になってから専門分野を決められる）

【選択肢】

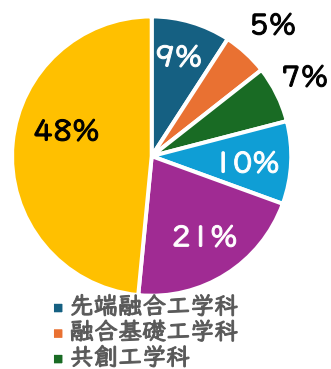
- ・ すごく良いと思う
- ・ やや良いと思う
- ・ どちらともいえない 分からない
- ・ あまり良くないと思う
- ・ まったく良くないと思う



問 11 機械，電気電子，ロボットの分野の勉強ができる新しい学科が 1 つできるとします。
あなたが，進学したいと感じる名前はどれですか？

【選択肢】

- ・先端融合工学科（せんたんゆうごう こうがくか）
- ・融合基礎工学科（ゆうごうきそ こうがくか）
- ・共創工学科（きょうそう こうがくか）
- ・総合システム工学科（そうごうしすてむ こうがくか）
- ・システムデザイン工学科（しすてむでざいん こうがくか）
- ・特にない



◎アンケートの詳細な分析（クロス集計）

Q6:高専・理数系への進学意欲と Q8:AI について学べること, Q9:入学の意欲の変化, Q10:入学後に学科選択ができることについてクロス集計をした結果を以下に示す。

Q6: 奈良高専やスーパーサイエンス ハイスクール (SSH), 高校の理数系学科, 情報系学科, 工業高校などの工業系・理数系への進学に興味がありますか?

Q8:奈良高専では, 今の5学科の専門分野(機械, 電気電子, ロボット, 情報, 化学)の勉強に加えて AI などの情報分野も勉強できる学校にしようとしています。このような変更についてあなたの考えを教えてください。

Q9:奈良高専は, 「専門分野にも AI にも強い奈良高専」として, 専門分野(機械, 電気, ロボット, 情報, 化学)に AI を組み合わせることができる人材を養成しようとしています。このような変更をしたことで, あなたの奈良高専へ入学したいという気持ちはどうなりますか?

Q10:今は, 受験時に5つの専門分野の学科から1つの学科を選ぶという入学試験を行っています。これを, 受験時には専門分野を選ばず入学して, すべての専門分野をある程度勉強してから, 興味ある専門分野を選ぶことができるように変更することについてどう思いますか? (例えば, 2年生になってから専門分野を決められる)

表 17 中学生へのアンケートクロス集計結果(その1)

クロス集計1		(人数)	Q8:AIが勉強できること					計	
			すごく 良い	やや良い	どちらとも いえない	あまり 良くない	まったく 良くない		
Q6:高専・理数系への 進学意欲	すごくある		17	3	1			21	9.2%
	ややある		25	19	5	1	1	51	22.3%
	どちらともいえない		11	28	21	1		61	26.6%
	あまりない		15	21	21			57	24.9%
	まったくない		5	7	20	3	4	39	17.0%
		計	73	78	68	5	5	229	
			31.9%	34.1%	29.7%	2.2%	2.2%		

クロス集計2		Q9:入学意欲の変化					計	
		すごく入学したい	今より入学したい	今とあまり変わらない	今より入学したくない	入学したい気持ちがなくなった		
Q6:高専・理数系への進学意欲	(人数)							
	すごくある	14	3	4			21	9.2%
	ややある	4	16	29	1	1	51	22.3%
	どちらともいえない	1	9	50	1		61	26.6%
	あまりない		6	49	2		57	24.9%
	まったくない		1	33		5	39	17.0%
計		19	35	165	4	6	229	
		8.3%	15.3%	72.1%	1.7%	2.6%		

回答者数 229 名

表 18 中学生へのアンケートクロス集計結果（その2）

クロス集計3

		Q10:入学後学科選択						
(人数)		すごく 良い	やや良い	どちらとも いえない	あまり 良くない	まったく 良くない	計	
Q6:高専・理数系への 進学意欲	すごくある	12	7	1	1		21	9.2%
	ややある	22	14	14	1		51	22.3%
	どちらともいえない	16	19	24	2		61	26.6%
	あまりない	11	13	29	4		57	24.9%
	まったくない	7	7	21	2	2	39	17.0%
計		68	60	89	10	2	229	
		29.7%	26.2%	38.9%	4.4%	0.9%		

回答者数 229 名

【資料 14】 奈良高専のインターンシップ受け入れ可能企業への技術系人材のニーズ調査アンケート

表 19 情報系人材を必要と回答した企業数と回答企業全体に占める割合

有効回答企業数	情報系人材が必要と回答した企業数	情報系人材が必要と回答した企業の割合
95社	60社	63%

表 20 企業が求める人材の専門分野別回答企業数（重複回答可）

企業が求める専門分野別の人材	〇〇系人材が必要と回答した企業数	情報系人材も必要と回答した企業数	情報系人材も必要と回答した企業の割合
機械系人材	80社	47社	59%
制御系人材	64社	48社	75%
電気系人材	81社	54社	67%
化学系人材	32社	18社	56%

表 21 情報系人材が必要と回答した企業 60 社の、専門分野別の企業数及び改組後の学科定員との関係

業種別の専門分野	情報系人材が必要と回答した企業数	情報系人材が必要と回答した企業の割合	関連する改組後の学科	学科定員
機械系企業	23社	38%	システムデザイン工学科	120名
電気系企業	13社	22%		
情報系企業	12社	20%	情報科学科	40名
化学系企業	11社	18%	物質創成化学科	40名
その他企業	1社	2%	計	200名
計	60社	100%		

新設組織が置かれる都道府県への入学状況

別紙 1

○出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位 5 都道府県）※直近年度

	都道府県名	人 数	構成比
1	奈良県	120人	59.4%
2	大阪府	37人	18.3%
3	京都府	29人	14.4%
4	滋賀県	4人	2.0%
5	三重県	3人	1.5%
	全 体	202人	100.0%

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合のみ作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

○新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地 （都道府県等）	充足率		
		令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
1	奈良県	104.50%	103.50%	101.00%
2				

※ 2 校地で教育課程を実施する場合はそれぞれの状況を記載すること。

○新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
1	理・工学系学科（高専）	104.50%	103.50%	101.00%
2				

※「系統区分」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」の系統区分に従うこと。

申請者が設置する全ての大学等（大学、短期大学、高等専門学校のみ）の
既設の学部（短期大学又は高等専門学校は学科）について記載してください。 小数点以下第3位四捨五入

※上記には、「大学、短期大学及び高等専門学校等の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項を適用した場合の学生数及び収容定員充足率を記入してください。その場合は、備考にその内訳を記入してください。
※大学院、専攻科、別科、募集停止を行った学部等については記載不要です。
※行は適宜追加してください。

１．各選抜方法の状況

			R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	R7年度入学者	平均
総合型選抜	募集人員							#DIV/0!
	延べ人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
		辞退者数						#DIV/0!
	実人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
		辞退者数						#DIV/0!
	入学者数							#DIV/0!
学校推薦型選抜	募集人員		24人	24人	24人	24人	24人	24人
	延べ人数	志願者数	26人	28人	35人	28人	31人	30人
		受験者数	26人	28人	35人	28人	31人	30人
		合格者数	24人	24人	25人	24人	24人	24人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	19人	24人	28人	23人	27人	24人
		受験者数	19人	24人	28人	23人	27人	24人
		合格者数	17人	20人	18人	19人	20人	19人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		24人	24人	25人	24人	24人	24人
一般選抜	募集人員		16人	16人	16人	16人	16人	16人
	延べ人数	志願者数	21人	28人	29人	23人	18人	24人
		受験者数	21人	27人	28人	23人	18人	23人
		合格者数	18人	19人	17人	18人	16人	18人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	2人	0人	1人	2人	0人	1人
	実人数	志願者数	18人	23人	30人	20人	17人	22人
		受験者数	18人	21人	29人	20人	17人	21人
		合格者数	14人	13人	15人	14人	13人	14人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	2人	0人	1人	1人	0人	1人
	入学者数		16人	19人	16人	16人	16人	17人
共通テスト利用入試	募集人員							#DIV/0!
	延べ人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
		辞退者数						#DIV/0!
	実人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
		辞退者数						#DIV/0!
	入学者数							#DIV/0!
その他の特別選抜	募集人員							#DIV/0!
	延べ人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
		辞退者数						#DIV/0!
	実人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
		辞退者数						#DIV/0!
	入学者数							#DIV/0!
合計	募集人員		40人	40人	40人	40人	40人	40人
	延べ人数	志願者数	47人	56人	64人	51人	49人	53人
		受験者数	47人	55人	63人	51人	49人	53人
		合格者数	42人	43人	42人	42人	40人	42人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	2人	0人	1人	2人	0人	1人
	実人数	志願者数	37人	47人	58人	43人	44人	46人
		受験者数	37人	45人	57人	43人	44人	45人
		合格者数	31人	33人	33人	33人	33人	33人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	2人	0人	1人	1人	0人	1人
	入学者数		40人	43人	41人	40人	40人	41人

２．入学定員充足率

	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	R7年度入学者	平均
入学定員	40人	40人	40人	40人	40人	40人
入学定員充足率	1.00	1.08	1.03	1.00	1.00	1.02
歩留率	0.95	1.00	0.98	0.95	1.00	0.98

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

１．各選抜方法の状況

			R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	R7年度入学者	平均
総合型選抜	募集人員							#DIV/0!
	延べ人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
		辞退者数						#DIV/0!
	実人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
学校推薦型選抜	入学者数							#DIV/0!
	募集人員		24人	24人	24人	24人	24人	24人
	延べ人数	志願者数	26人	31人	31人	36人	26人	30人
		受験者数	26人	31人	31人	36人	26人	30人
		合格者数	24人	24人	24人	24人	24人	24人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	23人	32人	27人	29人	19人	26人
		受験者数	23人	32人	27人	29人	19人	26人
		合格者数	21人	25人	20人	17人	17人	20人
一般選抜		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		24人	24人	24人	24人	24人	24人
	募集人員		16人	16人	16人	16人	16人	16人
	延べ人数	志願者数	24人	21人	21人	22人	20人	22人
		受験者数	24人	21人	21人	22人	20人	22人
		合格者数	18人	18人	18人	19人	16人	18人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	17人	14人	15人	22人	12人	16人
共通テスト利用入試		受験者数	17人	14人	15人	22人	12人	16人
		合格者数	10人	11人	11人	18人	8人	12人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		18人	18人	18人	19人	16人	18人
	募集人員							#DIV/0!
	延べ人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
その他の特別選抜		辞退者数						#DIV/0!
	実人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
		辞退者数						#DIV/0!
	入学者数							#DIV/0!
	募集人員							#DIV/0!
	延べ人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
合計		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
		辞退者数						#DIV/0!
	実人数	志願者数	40人	40人	40人	40人	40人	40人
		受験者数	50人	52人	52人	58人	46人	52人
		合格者数	50人	52人	52人	58人	46人	52人
		うち追加合格者数	42人	42人	42人	43人	40人	42人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		40人	46人	42人	51人	31人	42人
		受験者数	40人	46人	42人	51人	31人	42人
		合格者数	31人	36人	31人	35人	25人	32人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		42人	42人	42人	43人	40人	42人
	募集人員							#DIV/0!
	延べ人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!

２．入学定員充足率

	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	R7年度入学者	平均
入学定員	40人	40人	40人	40人	40人	40人
入学定員充足率	1.05	1.05	1.05	1.08	1.00	1.05
歩留率	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

大学学部学科等名：電子制御工学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

		R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	R7年度入学者	平均
総合型選抜	募集人員						#DIV/0!
	延べ人数						#DIV/0!
	志願者数						#DIV/0!
	受験者数						#DIV/0!
	合格者数						#DIV/0!
	うち追加合格者数						#DIV/0!
	辞退者数						#DIV/0!
	実人数						#DIV/0!
	志願者数						#DIV/0!
	受験者数						#DIV/0!
学校推薦型選抜	合格者数						#DIV/0!
	うち追加合格者数						#DIV/0!
	辞退者数						#DIV/0!
	実人数						#DIV/0!
	志願者数						#DIV/0!
	受験者数						#DIV/0!
	合格者数						#DIV/0!
	うち追加合格者数						#DIV/0!
	辞退者数						#DIV/0!
	入学者数						#DIV/0!
一般選抜	募集人員	24人	24人	24人	24人	24人	24人
	延べ人数						
	志願者数	33人	30人	31人	33人	29人	31人
	受験者数	33人	30人	31人	33人	29人	31人
	合格者数	24人	24人	24人	24人	24人	24人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	32人	27人	30人	33人	32人	31人
	志願者数	32人	27人	30人	33人	32人	31人
	受験者数	32人	27人	30人	33人	32人	31人
共通テスト利用入試	合格者数	23人	21人	23人	24人	27人	24人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	17人	18人	18人	18人	16人	17人
	志願者数	27人	20人	24人	19人	19人	22人
	受験者数	26人	20人	24人	18人	18人	21人
	合格者数	15人	11人	16人	15人	14人	14人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	1人	0人	0人	1人	3人	1人
	入学者数	17人	18人	18人	18人	16人	17人
その他の特別選抜	募集人員						#DIV/0!
	延べ人数						#DIV/0!
	志願者数						#DIV/0!
	受験者数						#DIV/0!
	合格者数						#DIV/0!
	うち追加合格者数						#DIV/0!
	辞退者数						#DIV/0!
	実人数						#DIV/0!
	志願者数						#DIV/0!
	受験者数						#DIV/0!
合計	合格者数						#DIV/0!
	うち追加合格者数						#DIV/0!
	辞退者数						#DIV/0!
	実人数						#DIV/0!
	志願者数						#DIV/0!
	受験者数						#DIV/0!
	合格者数						#DIV/0!
	うち追加合格者数						#DIV/0!
	辞退者数						#DIV/0!
	入学者数						#DIV/0!
合計	募集人員	40人	40人	40人	40人	40人	40人
	延べ人数						
	志願者数	58人	54人	53人	56人	47人	54人
	受験者数	57人	54人	53人	55人	46人	53人
	合格者数	42人	42人	42人	43人	43人	42人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	1人	0人	0人	1人	3人	1人
	実人数	59人	47人	54人	52人	51人	53人
	志願者数	58人	47人	54人	51人	50人	52人
	受験者数	58人	47人	54人	51人	50人	52人
合計	合格者数	38人	32人	39人	39人	41人	38人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	1人	0人	0人	1人	3人	1人
	実人数	41人	42人	42人	42人	40人	41人
	志願者数	41人	42人	42人	42人	40人	41人
	受験者数	41人	42人	42人	42人	40人	41人
	合格者数	41人	42人	42人	42人	40人	41人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	1人	0人	0人	1人	3人	1人
	入学者数	41人	42人	42人	42人	40人	41人

２．入学定員充足率

	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	R7年度入学者	平均
入学定員	40人	40人	40人	40人	40人	40人
入学定員充足率	1.03	1.05	1.05	1.05	1.00	1.04
歩留率	0.98	1.00	1.00	0.98	0.93	0.98

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

大学学部学科等名：情報工学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	R7年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人員							#DIV/0!
	延べ人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
		辞退者数						#DIV/0!
	実人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
		辞退者数						#DIV/0!
学校推薦型選抜	入学者数							#DIV/0!
	募集人員		24人	24人	24人	24人	24人	24人
	延べ人数	志願者数	38人	44人	39人	40人	36人	39人
		受験者数	38人	44人	39人	40人	36人	39人
		合格者数	24人	24人	24人	24人	25人	24人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	49人	46人	44人	49人	44人	46人
		受験者数	49人	46人	44人	49人	44人	46人
		合格者数	35人	26人	29人	33人	33人	31人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
一般選抜	入学者数		24人	24人	24人	24人	25人	24人
	募集人員		16人	16人	16人	16人	16人	16人
	延べ人数	志願者数	30人	33人	24人	23人	20人	26人
		受験者数	27人	32人	24人	23人	20人	25人
		合格者数	18人	18人	18人	18人	16人	18人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	1人	1人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	42人	43人	28人	30人	28人	34人
		受験者数	38人	42人	28人	30人	28人	33人
		合格者数	18人	18人	18人	18人	16人	18人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	1人	1人	0人	0人	0人
共通テスト利用入試	入学者数		18人	17人	17人	18人	16人	17人
	募集人員							#DIV/0!
	延べ人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
		辞退者数						#DIV/0!
	実人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
		辞退者数						#DIV/0!
その他の特別選抜	入学者数							#DIV/0!
	募集人員							#DIV/0!
	延べ人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
		辞退者数						#DIV/0!
	実人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
		辞退者数						#DIV/0!
合計	入学者数							#DIV/0!
	募集人員		40人	40人	40人	40人	40人	40人
	延べ人数	志願者数	68人	77人	63人	63人	56人	65人
		受験者数	65人	76人	63人	63人	56人	65人
		合格者数	42人	42人	42人	42人	41人	42人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	1人	1人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	91人	89人	72人	79人	72人	81人
		受験者数	87人	88人	72人	79人	72人	80人
		合格者数	53人	44人	47人	51人	49人	49人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	1人	1人	0人	0人	0人
	入学者数		42人	41人	41人	42人	41人	41人

２．入学定員充足率

	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	R7年度入学者	平 均
入 学 定 員	40人	40人	40人	40人	40人	40人
入 学 定 員 充 足 率	1.05	1.03	1.03	1.05	1.03	1.04
歩 留 率	1.00	0.98	0.98	1.00	1.00	0.99

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）
大学学部学科等名：物質化学工学科

別紙２の２－５

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	R7年度入学者	平均
総合型選抜	募集人員							#DIV/0!
	延べ人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
		辞退者数						#DIV/0!
	実人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
		辞退者数						#DIV/0!
学校推薦型選抜	入学者数							#DIV/0!
	募集人員		24人	24人	24人	24人	24人	24人
	延べ人数	志願者数	30人	41人	34人	33人	31人	34人
		受験者数	30人	41人	34人	33人	31人	34人
		合格者数	24人	24人	24人	24人	24人	24人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	30人	45人	41人	36人	31人	37人
		受験者数	30人	45人	41人	36人	31人	37人
		合格者数	24人	28人	31人	27人	24人	27人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
一般選抜	入学者数		24人	24人	24人	24人	24人	24人
	募集人員		16人	16人	16人	16人	16人	16人
	延べ人数	志願者数	25人	32人	20人	24人	15人	23人
		受験者数	25人	32人	20人	23人	15人	23人
		合格者数	18人	18人	19人	18人	15人	18人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人
		辞退者数	2人	0人	0人	2人	0人	1人
	実人数	志願者数	21人	38人	20人	24人	15人	24人
		受験者数	21人	38人	20人	23人	15人	23人
		合格者数	14人	18人	19人	18人	15人	17人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人
		辞退者数	2人	0人	0人	2人	0人	1人
共通テスト利用入試	入学者数		16人	18人	19人	16人	15人	17人
	募集人員							#DIV/0!
	延べ人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
		辞退者数						#DIV/0!
	実人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
		辞退者数						#DIV/0!
その他の特別選抜	入学者数							#DIV/0!
	募集人員						2人	2人
	延べ人数	志願者数					6人	6人
		受験者数					5人	5人
		合格者数					2人	2人
		うち追加合格者数					0人	0人
		辞退者数					0人	0人
	実人数	志願者数					6人	6人
		受験者数					5人	5人
		合格者数					2人	2人
		うち追加合格者数					0人	0人
		辞退者数					0人	0人
合計	入学者数						2人	2人
	募集人員		40人	40人	40人	40人	42人	40人
	延べ人数	志願者数	55人	73人	54人	57人	52人	58人
		受験者数	55人	73人	54人	56人	51人	58人
		合格者数	42人	42人	43人	42人	41人	42人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人
		辞退者数	2人	0人	0人	2人	0人	1人
	実人数	志願者数	51人	83人	61人	60人	52人	61人
		受験者数	51人	83人	61人	59人	51人	61人
		合格者数	38人	46人	50人	45人	41人	44人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人
		辞退者数	2人	0人	0人	2人	0人	1人
	入学者数		40人	42人	43人	40人	41人	41人

２．入学定員充足率

	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	R7年度入学者	平均
入学定員	40人	40人	40人	40人	40人	40人
入学定員充足率	1.00	1.05	1.08	1.00	1.03	1.03
歩留率	0.95	1.00	1.00	0.95	1.00	0.98

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

別紙 3

①募集を行った学科等名称及び取組の名称：【全学科対象】体験入学

	R6年度 入学者入試	R7年度 入学者入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数 (a)	382人	368人	①取組概要 令和6年度入試対応： R5年度 体験入学(8/18, 21, 22 382名) 令和7年度入試対応： R6年度 体験入学(8/4, 5, 6 368名) ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 令和6年度入試においては、受験対象者数（3年生）の68%に当たる169名が本校を受験し、142名が入学した。 令和7年度入試においては、受験対象者数（3年生）の56%に当たる127名が本校を受験し、123名が入学した。 本校に進学意欲のある生徒を獲得する上で重要なイベントであることがよく分かる。 改組後もこの取り組みを継続し、受験生の確保に努める。新しく生まれ変わる奈良高専をPRすることで、体験入学の参加者500名を目標とする。受験者数は、$500 \times (225/368) \times 0.56 = 171$名となり、約48名の増加が期待できる。
うち受験対象者数 (b)	237人	225人	
うち受験者数 (c)	162人	127人	
うち入学者数 (d)	142人	123人	
(受験率 c/b)	68.4%	56.4%	
(入学率 d/b)	59.9%	54.7%	

②募集を行った学科等名称及び取組の名称：【全学科対象】学校見学・入試説明会

	R6年度 入学者入試	R7年度 入学者入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数 (a)	167人	157人	①取組概要 令和6年度入試対応： R5年度 学校見学・入試説明会(10/28, 10/29 167名) 令和7年度入試対応： R6年度 学校見学・入試説明会(10/26, 10/27 157名) ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 令和6年度入試においては、参加者総数の75%が本校を受験し、そのうち112名が入学に至った。 令和7年度入試においては、参加者総数の57%が本校を受験し、そのうち86名が入学に至った。 本校に進学意欲のある生徒を獲得する上で重要なイベントであることがよく分かる。 改組後もこの取り組みを継続し、受験生の確保に努める。新しく生まれ変わる奈良高専をPRすることで、この行事の参加者200名を目標とする。受験者数は、$300 \times (116/157) \times 0.57 = 126$名となり、約36名の増加が期待できる。
うち受験対象者数 (b)		116人	
うち受験者数 (c)	126人	90人	
うち入学者数 (d)	112人	86人	
(受験率 c/b)	#DIV/0!	77.6%	
(入学率 d/b)	#DIV/0!	74.1%	

③募集を行った学科等名称及び取組の名称：【全学科対象】入試説明会（学内外実施）

	R6年度 入学者入試	R7年度 入学者入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数 (a)	51人	33人	①取組概要 令和6年度入試対応：R5年度 入試説明会 (10/7, 10/14, 10/21, 11/18, 12/3) 令和7年度入試対応：R6年度 入試説明会 (10/6, 10/12, 11/2, 11/17, 11/30) ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 令和6年度入試においては、京田辺市、八尾市、大津市、大阪市、本校において入試説明会を実施し、51名の参加があった。 37人が受験し、34名が合格し入学に至っている。 令和7年度入試においては、京田辺市、八尾市、大津市、大阪市、本校において入試説明会を実施し、33名の参加があった。 受験対象者数32人に対して、69%の22人が受験し、22名が合格し入学に至っている。 新しく生まれ変わる奈良高専をPRすることで、この取り組みの参加者50名を目標とする。受験者数は、$50 \times (32/33) \times 0.69 = 33$名となり、約11名の増加が期待できる。
うち受験対象者数 (b)		32人	
うち受験者数 (c)	37人	22人	
うち入学者数 (d)	34人	22人	
(受験率 c/b)	#DIV/0!	68.8%	
(入学率 d/b)	#DIV/0!	68.8%	

④募集を行った学科等名称及び取組の名称：【全学科対象】KOSEN FES

	R6年度 入学者入試	R7年度 入学者入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数 (a)	240人	180人	①取組概要 令和6年度入試対応： 高専女子フォーラムin関西 (9/3) KOSENFES東京会場 (6/19) KOSENFES大阪会場 (7/17) 令和7年度入試対応： 高専女子フォーラムin関西 (12/8) KOSENFES東京会場 (6/23) KOSENFES大阪会場 (7/14) ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 上記イベントについては、不特定多数の参加イベントのため実績を把握できていない。しかし当該イベントに参加し、知名度の向上をはかることができている。
うち受験対象者数 (b)			
うち受験者数 (c)			
うち入学者数 (d)			
(受験率 c/b)	#DIV/0!	#DIV/0!	
(入学率 d/b)	#DIV/0!	#DIV/0!	

⑤募集を行った学科等名称及び取組の名称：【全学科対象】中学校教諭・学習塾向け入試説明会

	R6年度 入学者入試	R7年度 入学者入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数 (a)	70人	65人	①取組概要 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 ※入学率等を用いて、本取組に関する参加者等総数の見込みから予想される入学者の人数を分析してください。 ①取組概要 令和6年度入試対応：R5年度学習塾向け入試説明会 4名 中学校教諭向け入試説明会 66名 令和7年度入試対応：R6年度学習塾向け入試説明会 12名 中学校教諭向け入試説明会 53名 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 本校では毎年9月に中学校教諭向け、学習塾向けに入試説明会を実施し、入試制度をはじめ「中学校」、「学習塾」の立場で生徒指導を行うために必要な情報を提供している。指導している生徒に本校志願者がいる場合に参加する事例が多く、年平均で80人程度で推移している。
うち受験対象者数 (b)			
うち受験者数 (c)			
うち入学者数 (d)			
(受験率 c/b)	#DIV/0!	#DIV/0!	
(入学率 d/b)	#DIV/0!	#DIV/0!	

⑥募集を行った学科等名称及び取組の名称：科学教室、出前授業（全学科対象）

	R6年度 入学者入試	R7年度 入学者入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数 (a)			①取組概要 令和6年度入試対応： R5年度 科学教室・出前授業 18件(大和郡山市，生駒市) 令和7年度入試対応： R6年度 科学教室 16件(大和郡山市，生駒市) ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 平成17年度に大和郡山市，その後生駒市と学市連携協定を締結し，小中学校向けに科学教室，出前授業を実施している。入学者の中にこれらを受講した者も少なからずおり，入学者アンケートではこれらの行事が本校への興味のきっかけとする回答も見られ，地域の理系教育の振興だけでなく本校への興味を喚起する事業となっている。
うち受験対象者数 (b)			
うち受験者数 (c)			
うち入学者数 (d)			
(受験率 c/b)	#DIV/0!	#DIV/0!	
(入学率 d/b)	#DIV/0!	#DIV/0!	